

## 携帯電話が若者のコミュニケーション行動に与える影響

中 村 雅 章

1. はじめに
2. 調査概要
3. 携帯電話利用の実態
  - 3.1 所持台数
  - 3.2 所持時期・理由
  - 3.3 利用目的・頻度
  - 3.4 やりとりする相手
  - 3.5 利用料金
  - 3.6 カメラ機能
4. 携帯電話の影響分析
  - 4.1 携帯電話の人間関係
  - 4.2 意識面・行動面・関係性の変化
  - 4.3 通話利用・メール利用の影響
  - 4.4 個人差の影響
  - 4.5 満足度の規定要因
  - 4.6 良い面・悪い面
5. おわりに

キーワード：携帯電話、PHS、コミュニケーション、人間関係、大学生調査

### 1. はじめに

今日、携帯電話（PHSを含む）は日常的なコミュニケーション・ツールとして、多様な場面で利用されている。自動車電話の商用サービスが開始された1979年以来、携帯電話は長らく会社幹

部や専門職の人々を中心にビジネス用途に用いられてきた。しかし、1994年に端末の売り切り制度が導入され、携帯電話の販売が自由化されると、各メーカーは競って小型軽量・低価格の製品を開発し、市場に投入し始めた。携帯電話各社も激しい顧客獲得競争を繰り広げた。

携帯電話の加入者数は、電気通信事業者協会によると、2003年5月末現在、約8,220万件となっており、人口普及率も60%を超えている。携帯電話の普及が急伸する1994年度末の加入者数が約433万件（人口普及率3.5%）であったことを考えると、この間の普及がいかに急速であったかが理解できる。

携帯電話の普及が急速に進んだ要因として、上述の経緯から携帯電話の小型軽量化、本体価格の低下、新規加入料・通話料の引き下げ、サービスエリアの拡大といった技術的、経済的要因を考えることができるが、これらの要因を背景に、10代から20代の若者層が、彼（女）らの日常生活に携帯電話という新しいコミュニケーション・ツールを積極的に取り入れ始めたということが何よりも重要であった。若者は、携帯電話に、いつでも、どこでも相手に通じるというパーソナルな通信手段としての価値を見出したのである。

当初は、持ち運びできる個人的電話（移動電話）という位置づけであった携帯電話も、その後の技術的進歩により、メール機能やインターネット機能、カメラ機能などが付加され、オフラインでは電話帳や時計代わりになるなど、携帯情報端末としての様相を呈してきている。そして、多機能化した携帯電話は、人々の効率的行動や人間関係のあり方に大きな影響を与えるようになってきた。とくに、携帯電話の利用が盛んな若者は、人間関係やコミュニケーション能力の形成過程にあることから、携帯電話による影響を強く受けている可能性がある。

本稿では、若者の代表として大学生に着目し、携帯電話利用状況について実態調査を実施した。この調査結果に基づき、携帯電話利用が若者のコミュニケーション行動に与える影響について考察してみたい。

## 2. 調査概要

調査は、2002年12月上旬に、名古屋市内の大学生（文系私立大学生中心）185人を対象に実施した。調査票は授業の時間などをを利用して集団配布、回収した。

学生の内訳は、学年別には、「1年生」(43.2%)、「2年生」(23.2%)、「3年生」(14.1%)、「4年生」(19.5%)であった。年齢別には、「18才」(11.9%)、「19才」(36.8%)、「20才」(20.5%)、「21才」(11.9%)、「22才」(13.5%)、「23才」(3.8%)、「25才」(1.1%)、「26才」(0.5%)であった。性別では、「男性」(70.3%)、「女性」(29.7%)であった。

また、調査では、携帯電話とはPHSを含むものとして回答してもらった。以下、断りのない限り、携帯電話という用語はPHSを含むものとして用いることにする。

### 3. 携帯電話利用の実態

#### 3.1 所持台数

携帯電話の所持台数は、「1台持っている」が97.3%、「2台持っている」が2.7%であり、「持っていない」という回答はなかった。したがって、所持率は100%となった。

従来の調査研究によると、大学生を中心とする若者の携帯電話利用率は、他の年齢層に比べて格段に高くなる傾向が明らかになっている。橋元他（2000）によると、東京近辺に住む15才から49才までの住民806人を対象に行った1999年2月の調査で、携帯電話の利用者は全体平均では63.8%であったが、20代では76.5%となっている。マルチメディア振興センター編（2000）によると、全国満13才以上70才未満の男女2,016人を対象とした2000年3月の調査では、携帯電話の利用者は52.5%となっているが、大学／大学院在学者の利用率に限っていえば91.5%に達している。

大学生を対象とした調査では、松山市の大学生486人を2000年4月に調査した中村（2000）によると、携帯電話を利用している人は91.2%であった。田中（2000、2001）によると、東京の私立大学生を対象とした調査で、携帯電話の所持率は2000年7月の調査では95.5%、2001年7月の調査では96.3%であった。

このように、携帯電話利用をリードするのは若者層であることを考えると、今回の調査で所持率が100%となったことはそれほど驚くべきことではないといえる。上述した田中（2000）の調査でも報告されているように、携帯電話は「大学生にとっての身分証のようなもの」である。身分証（携帯電話）を持たないと、大学生とは認められないである。

今回の調査でさらに注目されるのは、携帯電話を2台以上所持する人が2.7%（5人）みられたことである。自由回答によると、実質的に2台以上を使い分けているのは次の3例であった。

#### 【2台以上の携帯電話の使い分け】

「家族、バイト用と友達用」「通常の電話機としてと事務的なもの」「片方は通常使って、片方は受信のみ」

残念ながら、“事務的なもの”が何かなど、使い分けの詳細については調査方法の限界でこれ以上明らかにすることはできなかったが、携帯電話を持っているかどうかの段階はとうにすぎていることがうかがえる。他の2例は、「1つは契約しておらず、データの保存用にしている」「1つは電話やメール用、もう1つはゲームをやる」であり、機種変更などで新しい携帯電話を入手したとき、従来の携帯電話はその付属機能だけ使い続けるといったものであった。

#### 3.2 所持時期・理由

携帯電話を使い始めた時期としては、「高校生以前」（9.8%）、「高校1年生」（44.0%）、「高校2年生」（23.4%）、「高校3年生」（12.0%）、「浪人生」（0.5%）、「大学1年生」（10.3%）であり、高

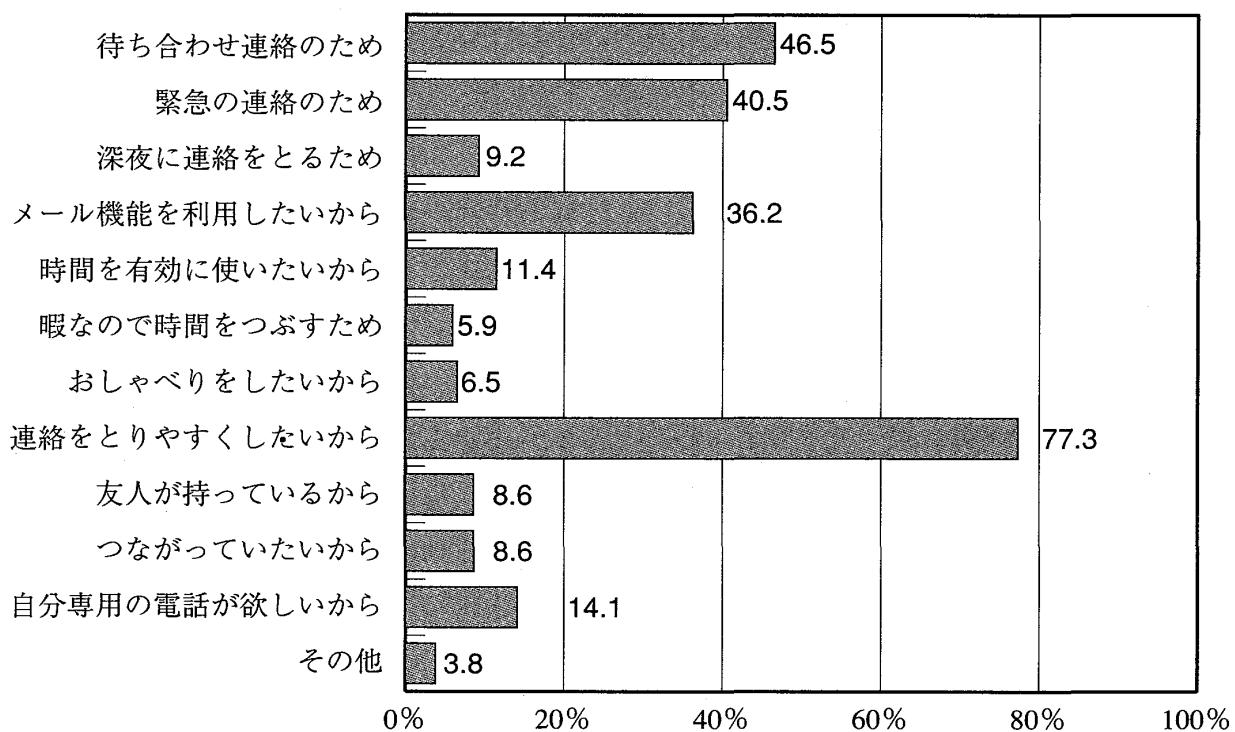
校1年生、または2年生で携帯電話を持った場合が多かった。大学生になって初めて携帯電話を持ったというのはむしろ少数派であった。ちなみに、大学2年生以降に所持したという回答はなかった。先程、携帯電話は大学生にとっての身分証であると述べたが、すでに高校生の必需品となっている可能性がある。

また、携帯電話を持っている理由について集計した結果を図1に示す。圧倒的に多いのは「連絡をとりやすくしたいから」であり、「待ち合わせ連絡のため」「緊急の連絡のため」という理由も多くなっている。学生にとって、携帯電話は何らかの連絡のために使うのであり、連絡を取り合って相手と会ったり、行動を調整したりしていると思われる。裏を返せば、携帯電話を持っていないと連絡が来ないということであり、友人のネットワークから外れることを意味する。

また、若者にとって携帯電話は通話機能よりもメール機能の方が重要になってきており、「メール機能を利用したいから」という理由も多い。若者は、後述するように、通話よりもメールで頻繁にやりとりしており、若者にとって携帯電話は単なる電話機ではないのである。

一方、従来の実証研究（たとえば、仲島他、1999）で上位に挙げられてきた「自分専用の電話が欲しいから」「深夜に連絡をとるため」といったパーソナル通信としての利用動機や、「友人が持っているから」といった社会的圧力による利用動機は少なくなっている。これは、携帯電話が急速に普及し、先にみたように、普及率が100%に達していることが大きな理由であると考えられる。

図1 携帯電話を持っている理由（複数回答：3つまで）



### 3.3 利用目的・頻度

携帯電話をどのような目的で利用しているのか、通話とメールのそれぞれについて調査した結果を図2、図3に示す。通話では、「待ち合わせの連絡」「お誘い」「依頼・お願ひ」「相談」が多く、メールでは、「待ち合わせの連絡」「お誘い」「現況報告（今の自分の状況を伝える）」「ちょっととした気持ち」が多くなっている。通話、メールともに、「待ち合わせの連絡」や「お誘い」が多いということは、携帯電話を利用するほど相手とよく会うことになる。また、通話とメールの相違点としては、通話は相手の反応や相手との相互作用が必要となる「依頼・お願ひ」「相談」に利用される傾向があるのに対して、メールでは、相手の反応や応答を期待しない一方向的な伝達である「現況報告」や「ちょっとした気持ち」を表すのに利用される傾向がある。

性別には、男性の方が通話で「待ち合わせの連絡」（t検定、 $p < 0.05$ ）、「お誘い」（同、 $p < 0.01$ ）、「相手のお願いを断る」（同、 $p < 0.1$ ）、「情報提供」（同、 $p < 0.05$ ）が有意に多く、女性の方がメールで「待ち合わせの連絡」（同、 $p < 0.05$ ）、「お誘い」（同、 $p < 0.05$ ）、「相手のお願いを断る」（同、 $p < 0.01$ ）、「相談」（同、 $p < 0.01$ ）が有意に多かった。これらの用途については、男性は通話、女性はメールで対応する傾向があるといえる。

図2 通話の利用目的

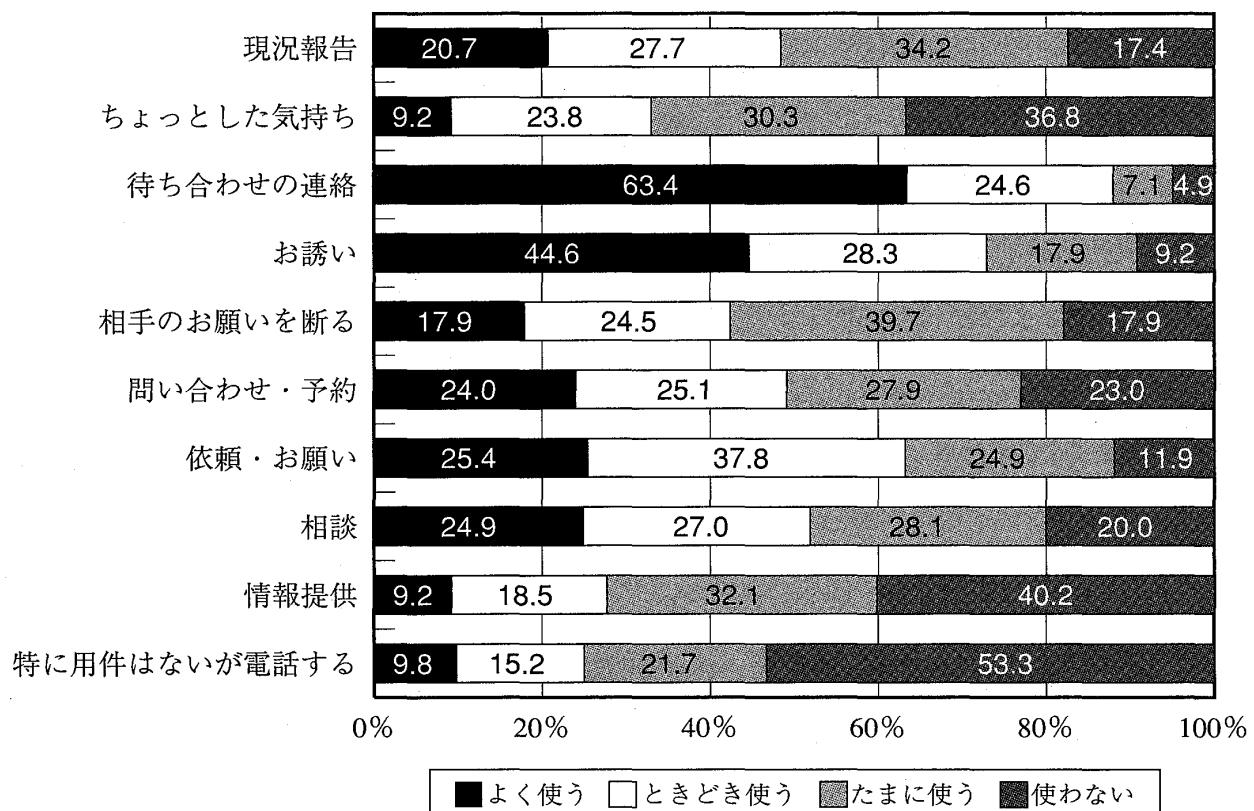


図3 メールの利用目的

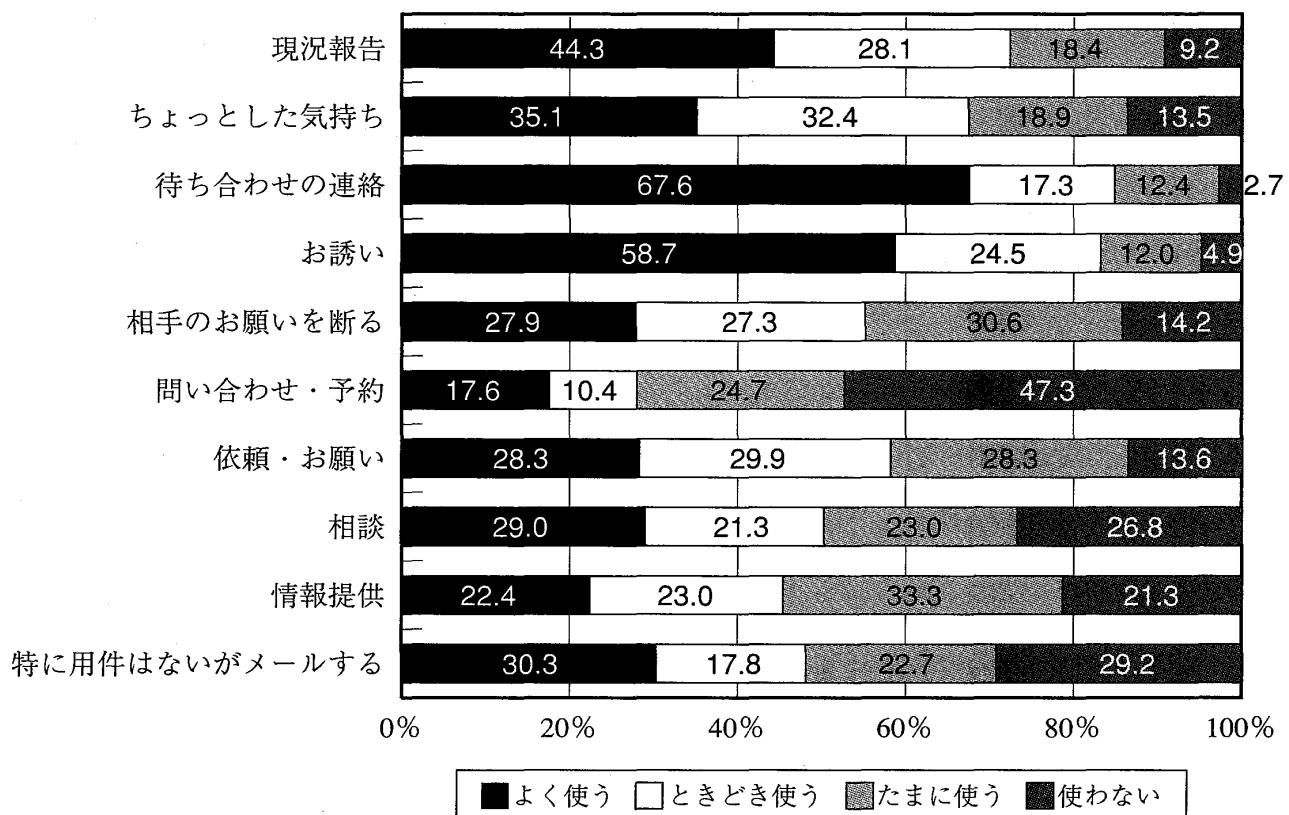


表1は、実際の利用頻度を調査した結果である。通話は、発信（かける回数）では、「1日3～5回」が最も多く、次いで「1日1～2回」「週数回程度」の順となっている。また、着信（受ける回数）では、同様に「1日3～5回」が最も多く、次いで「1日1～2回」「1日6～9回」の順となっている。通話は、「1日3～5回」以下が発信では全体の約9割、受信では約8割を占める。また、受信、発信ともに、恋人がいる人（ $\chi^2$ 検定、 $p < 0.05$ ）、男性（同、 $p < 0.05$ ）が多くなる傾向があった。

これに対して、メールは、送信では通話と同様に「1日3～5回」が最も多かったが、次いで「1日6～9回」「1日10～14回」の順であり、受信では、「1日6～9回」が最も多く、以下、「1日3～5回」「1日10～14回」の順であった。また、メールでは受信、送信ともに、「1日20回以上」という場合も少なくなかった。また、メールについては、 $\chi^2$ 検定で個人差はみられなかった。

このように、携帯電話の利用では、従来の実証研究でも示されてきたように（三宅、2001；田中、2000）、メールの方が通話よりも利用頻度が多くなる傾向がある。この理由としては、メールの方が利用料金がかなり安価であることが若者にとって最も大きいと考えられるが、これを前提に、メールでは相互にチャット的なやりとりがなされることや、通話では伝えないようなメッセージ

表1 利用頻度の分布

|         |    | 1日<br>20回以上  | 1日<br>15~19回 | 1日<br>10~14回 | 1日<br>6~9回   | 1日<br>3~5回   | 1日<br>1~2回   | 週数回<br>程度    | 週1回<br>程度   | 月数回<br>程度  | ほとんど<br>使わない |
|---------|----|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|-------------|------------|--------------|
| 通<br>話  | 発信 | 3<br>(1.6)   | 1<br>(0.5)   | 8<br>(4.3)   | 10<br>(5.4)  | 66<br>(35.7) | 53<br>(28.6) | 25<br>(13.5) | 10<br>(5.4) | 5<br>(2.7) | 4<br>(2.2)   |
|         | 着信 | 1<br>(0.5)   | 2<br>(1.1)   | 7<br>(3.8)   | 25<br>(13.5) | 69<br>(37.3) | 50<br>(27.0) | 19<br>(10.3) | 6<br>(3.2)  | 4<br>(2.2) | 2<br>(1.1)   |
| メ<br>ール | 送信 | 28<br>(15.1) | 15<br>(8.1)  | 34<br>(18.4) | 42<br>(22.7) | 43<br>(23.2) | 13<br>(7.0)  | 5<br>(2.7)   | 1<br>(0.5)  | 0<br>(0)   | 4<br>(2.2)   |
|         | 受信 | 30<br>(16.2) | 13<br>(7.0)  | 39<br>(21.1) | 45<br>(24.3) | 41<br>(22.2) | 9<br>(4.9)   | 4<br>(2.2)   | 1<br>(0.5)  | 1<br>(0.5) | 2<br>(1.1)   |

(注) 単位：人、( ) 内は%

(現況報告やちょっとした気持ちなど) でも伝えることが利用頻度を高めていると思われる。

橋元（2001）は、携帯メールが高頻度で使われる理由について、料金が安いことに加え、相手の世界に割り込む通話をできるだけ避けるという若者特有の気遣い性向や、相手の状況や感情が即座にわかってしまうことへの精神的自己防衛を挙げている。さらに、携帯電話利用のマナーに対する社会的意識が高まっており、公共の場などで通話が制限される傾向にあることも、メール利用を促していると考えられる。

### 3.4 やりとりする相手

携帯電話の電話帳（メモリ）に、現在、何件の登録があるかについては、「91~120件」（23.2%）が最も多く、次いで「61~90件」（20.5%）、「31~60件」（14.1%）、「121~150件」（13.5%）、「151~180件」（9.2%）の順であった。「301件以上」も3.8%みられていた。このように、メモリには多くの人が登録されているが、このうち実際にやりとりする相手は限られている。

携帯電話でやりとりする相手の人数を、よくやりとりする相手（目安として週1回以上）と、ときどきやりとりする相手（目安として月1回以上）に分けて集計した結果を表2に示す。通話でよくやりとりする相手は、「2~3人」「4~5人」が多い。ときどきやりとりする相手についても同様で、「2~3人」「4~5人」が多い。また、メールでは通話に比べてやや人数が多くなる傾向がみられるが、それでもよくやりとりする相手は「4~5人」「2~3人」、ときどきやりとりする相手は「6~9人」「2~3人」の辺りが多い。よくやりとりする通話とメールの相手は、すぐ後にみるよう重複していることが考えられることから、実際にやりとりする人数はメモリに登録されている人数に遠く及ばないのである。

よくやりとりする相手はどのような人かを第1位から第3位まで挙げてもらったところ、次の

表2 やりとりする相手の人数

|     |              | 1人         | 2～3人         | 4～5人         | 6～9人         | 10～15人       | 16～19人      | 20人以上       | 特にいない       |
|-----|--------------|------------|--------------|--------------|--------------|--------------|-------------|-------------|-------------|
| 通話  | よくやりとりする相手   | 8<br>(4.3) | 57<br>(30.8) | 55<br>(29.7) | 31<br>(16.8) | 16<br>(8.6)  | 4<br>(2.2)  | 3<br>(1.6)  | 11<br>(5.9) |
|     | ときどきやりとりする相手 | 3<br>(1.6) | 60<br>(32.4) | 37<br>(20.0) | 28<br>(15.1) | 26<br>(14.1) | 10<br>(5.4) | 12<br>(6.5) | 9<br>(4.9)  |
| メール | よくやりとりする相手   | 7<br>(3.8) | 54<br>(29.3) | 61<br>(33.2) | 35<br>(19.0) | 17<br>(9.2)  | 4<br>(2.2)  | 3<br>(1.6)  | 3<br>(1.6)  |
|     | ときどきやりとりする相手 | 2<br>(1.1) | 41<br>(22.4) | 33<br>(18.0) | 47<br>(25.7) | 34<br>(18.6) | 10<br>(5.5) | 13<br>(7.1) | 3<br>(1.6)  |

(注) 単位：人、( ) 内は%

のような結果になった（通話、メールで順位などに違いはなかった）。恋人がいない人については（カッコ内は通話、メールの順）、

第1位：「よく会う」(79.0%、72.4%)、「同性」(85.6%、79.8%) の、「同じ大学の友人」(42.9%、48.6%)

第2位：「よく会う」(50.5%、45.2%)、「同性」(73.5%、67.0%) の、「同じ中学・高校の友人」(34.6%、34.3%)

第3位：「たまに会う」(42.4%、40.6%)、「同性」(66.3%、63.4%) の、「同じ中学・高校の友人」(31.7%、28.2%)

となった。また、恋人がいる人については、

第1位：「よく会う」(82.6%、82.6%) 「恋人」(73.9%、73.9%)

第2位：「よく会う」(58.2%、54.7%)、「同性」(73.5%、75.4%) の、「同じ中学・高校の友人」(32.4%、30.8%)

第3位：「よく会う」(46.9%、43.5%)、「同性」(70.4%、86.5%) の、「同じ大学の友人」(27.3%、31.7%)

となった。

このように、携帯電話でやりとりする相手は、よく会う親密な友人（恋人を含む）が典型的である。また、若者の友人関係は、一般に中学・高校から大学へ進学することによって大きく変化するが、携帯電話によって中学・高校時代の友人関係が保たれていることがわかる。

携帯電話のメモリには、普段やりとりしない人も数多く登録されているが、メモリ登録については（複数回答）、「人によっては自分の携帯電話番号を教えたくない人もいる」(70.8%)、「携帯電話番号のみを教えていて、携帯メールアドレスを教えていない人がいる」(51.9%)、「電話帳へ

登録するには、自分なりのルール（基準）を持っている」（36.2%）という状況であった。「携帯メールアドレスのみを教えていて、携帯電話番号を教えていない人がいる」（21.1%）はやや低くなることから、通常は携帯電話番号を教えることになる。ごくわずかではあるが、「知っている人に對して、着信拒否設定をしている人がいる」（7.0%）もあった。

携帯電話番号を何回変えたことがあるかについては、「2～3回」（40.0%）が最も多く、次いで「4回以上」（24.9%）、「1回だけ」（18.9%）、「変えたことがない」（16.2%）の順であった。電話番号の変更は、利用年数の割には多いのである。電話番号を変更すると、友人、知人に新しい番号を通知しなければならないため、通常は機種変更はしても電話番号は変えないことが多い。それでも電話番号を変更するのは、料金割引制度があるなどの経済的理由、音質改善などの技術的理由、友人と同じ電話会社にする、人間関係をリセットするなどの社会的理由が考えられる。

### 3.5 利用料金

利用料金については、まず自分で払っているのかどうかを聞いたところ、「払っている」が52.4%、「払っていない」が47.6%でほぼ半々の状況であった。今回の調査では自分で利用料金を払っていない人が意外と多かった。これは、携帯電話を持ち始めた時期が高校生の頃と低年齢化していることから、大学生になってもそのまま親に利用料金を払ってもらうケースが多いと推測される。性別では、女性の方が自分で払っていない人が多かった（ $\chi^2$ 検定、 $p < 0.05$ ）。また、大学1年生、2年生では自分で払っていない人が多かったが、3年生、4年生では自分で払う人の方が多くなかった（同、 $p < 0.05$ ）。

月々の利用料金については、「7,001～9,000円」（24.3%）が最も多く、以下、「9,001～12,000円」（22.2%）、「12,001円以上」（18.4%）、「5,001～7,000円」（17.8%）の順となっている。吉井（2001）の調査では、月々の利用料金は7,000円から8,000円が多いと報告されているが、本調査でも7,001～9,000円は最も割合が多くなっている。しかし、月々9,000円を超える人も全体の4割程度あり、利用料金の負担は重くなっている。利用料金は、通話の発着信、メールの送受信が増えるほど多くなるが、さらに男性、上級生、利用年数の長い人、恋人がいる人が有意に多くなる傾向があった。利用料金を自分で払うか、払わないかで、月々の利用料金の分布に差はなかった。

携帯電話の料金についてどう思うかについては、「とても高いと思う」（21.6%）、「やや高いと思う」（43.8%）、「適当であると思う」（28.6%）、「やや安いと思う」（2.7%）、「とても安いと思う」（3.2%）となっており、全体の6割が高いと感じている。利用料金が高くなる傾向があった男性、上級生、利用年数の長い人は、当然のことながら、より高いと思う傾向にあった。

携帯電話の使い方については、「通話、メールともに気にせず使っている」（41.6%）が最も多かったが、同程度の比率で「なるべく通話を使わず、メールで済ますようにしている」（40.0%）と答えた人も多かった。「通話を主に使っている」（16.2%）は少なかった。男性、上級生は、通話・

メールとともに気にせず使う人が多く、これが利用料金を押し上げる要因となっている。

### 3.6 カメラ機能

携帯電話のカメラ機能については、最近になって普及が進んできたため、その利用状況についての調査データはまだ少ない。そこで、本調査では、カメラ機能の利用実態について調べてみた。携帯電話にカメラ機能が付いているかどうかについては、「付いている」が37.8%、「付いていない」が62.2%であり、現状では付いていない人の方が多い。

カメラ機能が付いている人は、どのくらいの頻度で利用するかについては、「月2～3回」(34.3%)が最も多く、次いで「週2～3回」(31.4%)、「年に数回」(14.3%)の順となっている。「ほぼ毎日」(5.7%)は非常に少ない。実際にどんなときに利用するかについては、自由記述で次のような意見があった。

#### 【カメラを利用するとき】

「イベントなどに出かけたとき、記念に撮る。」「旅行の記念。旅先で珍しいものを見つけたとき。」「キレイな景色やカワイイものを見たときや、久々に会った友人など、たわいのないことで使っている。」「ペットを写して壁紙にする。」「着信時に顔が出るようにするため、友人をとっている。」

カメラ機能は、出かけた先での記念や気に入ったものを撮ることが最も多い。また、待ち受け画面（壁紙）や着顔（着信画面に相手の顔が出るようすること）といった利用方法も多かった。

また、撮影した画像を友人などに見せることについては、「よくある」(15.9%)、「ときどきある」(40.6%)、「たまにある」(33.3%)、「ない」(10.1%)であった。これは、撮ったものを友人に見せることでコミュニケーションを円滑にする目的があると思われる。撮影した画像をメールに添付して送ることについては、「よくある」(4.3%)、「ときどきある」(27.1%)、「たまにある」(50.0%)、「ない」(18.6%)であり、直接見せるよりは全般に低くなる傾向があった。

カメラ機能が必要かどうかについては、「絶対必要」(8.6%)、「やや必要」(54.3%)、「あまり必要でない」(27.1%)、「いらない」(10.0%)となっており、絶対必要であるというよりは、やや必要であるという回答が多い。一方、必要でないという回答も全体の4割近くみられた。

#### 【必要である理由】

「あると話題になるし、写真に残しておきたいときもあるから。」「撮った画像により、それを人に見せたり、自分で思い出したりできるから。」「コミュニケーションの1つとして。」「楽しいから話題性がある。」「楽しいし、いまどんな状態なのかとか、買い物とかに行ってどっちがいいかとか、写真を見てわかったり、聞けたりする。カメラがないときでもいつでもとれる。」

#### 【必要ではない理由】

「初めは興味があって使うが、次第にあきてくるから、絶対必要というわけではない。」「ほとんど使う機会がないから。」「必要とも思えないから。」「画像がよくなく、別になくてもいいから。」

「友達と遊んでいても、特別何かあったときじゃないと忘れていて撮らない。」

カメラ機能は、携帯電話の付属機能として、積極的に使っていきたいという人と、そうでない人に分かれるようである。また、画質については、新機種が出るたびに鮮明になってきており、デジタルカメラ並みの100万画素を超えるものもあり（2003年7月現在）、メモ代わりに使う場合も増えてきている。

一方、現在カメラ機能が付いていない人は、カメラ機能を使ってみたいという人が圧倒的に多い。「ぜひ使ってみたい」（45.6%）、「できれば使ってみたい」（40.4%）で全体の8割以上を占め、「どちらかといえば使いたくない」と「使いたくない」はともに高々7.0%であった。

#### 【使ってみたい理由】

「面白そう。」「便利そう。」「楽しそう。」「言葉では表現しにくいようなものを伝えられる。」「周りの友人が使い出したので。」「思い出が形に残る。」「画像を活用することで、相手との交流も一層強くなるのではないか。」

カメラ機能は、まだ使ったことがない人にとっては魅力的であり、潜在的ユーザは多いと思われる。しかし、現時点でのカメラ機能が若者のコミュニケーション行動に大きな影響を与えていたとは考えられないため、次節以降の分析では、カメラ機能については考慮しないことにする。

## 4. 携帯電話の影響分析

### 4.1 携帯電話の人間関係

携帯電話が若者の人間関係にどのような影響を与えるかについては、これまでいくつかの主張がなされてきた。仲島他（1999）は、若者の携帯電話利用は特定少数の仲間とのコミュニケーションをより緊密にし、心理的に1日中一緒にいる気持ちになる「フルタイム・インティメート・コミュニティ」を創造する効果があると述べている。その結果、友人関係は、携帯電話で頻繁に連絡を取り合い、一緒に過ごす親密な友人（恋人を含む）と、普通の友人に2層分化すると指摘している。

また、松田（2000）は、若者の人間関係は“広いが浅い”といわれることに対して、つき合う相手を主体的に選択するという観点からとらえることも可能であると述べ、携帯電話が「選択的人間関係」を促進するのではないかと論じている。携帯電話は、直接相手に連絡することを可能にするとともに、留守番電話や発信者番号表示機能（通称、番通）によって相手を確認し、応答するか否かを決定できるためである。実際に、松田（2001）は番通選択について、東京近辺の有職者400人を対象に調査し、20代男女では約6割が番通選択を実行しており、年齢が上昇するにつれて、実行者は減ることを明らかにしている。若者は、初対面でも気楽に自分の携帯電話番号を教える傾向があり、人間関係を構築する上で携帯電話は不可欠な手段となっているが、同時に他

人から煩わされたくないという思いもある。このような相矛盾する志向を実現するために、いつ、誰とつきあうかを自分で選択することになるとしている（岡田他、2000）。

一方、中村（2001a）は、携帯電話の人間関係・日常生活への影響を、影響レベルと影響メカニズムによって整理している。影響レベルとしては、意識面、行動面、関係性、規範の4つのレベルがある。影響メカニズムとしては、簡便化（手近にあるため簡単に電話できる）、直接化（直接本人とつながる）、常態化（いつでも電話ができる）、その他（時計機能、メモリ機能、発信者番号表示機能、着信音の多様性、加入・解約の容易さ）の4つがある。これらを組み合わせて、表3に示すような、さまざまな影響関係を想定している。この表では、主に音声通話を前提に、想定される影響が記入されているが、通話とメールでは多少異なった影響を与えることは十分に考えられる。この点については、中村（2001a、2001b）も、たとえば上記の仲島他（1999）が指摘した「フルタイム・インティメート・コミュニティ」は、通話機能よりも、メール機能によって

表3 携帯電話の人間関係・日常生活への影響

| 影響<br>レベル | 影響メカニズム                |                                |   |                        |   |
|-----------|------------------------|--------------------------------|---|------------------------|---|
|           | 簡便化                    | —                              | 直接化   | —                      | 常態化   |
| 意識面       |                        |                                | 直接意識<br><u>場所不明感覚</u>                               | 連帶意識<br>ストレスの増減<br>束縛感 | 電話のファッショナ化<br>(着メロ、ストラップ)<br>自由感<br>連絡可能安心感 |
| 行動面       | 通話増大<br><u>固定電話の減少</u> | 会合増大                           | 通話・交際の深夜化<br>計画の直前決定<br>仕事プライベートの境界曖昧化<br>小さな用件でも連絡 | 行動の効率化                 | 手帳・時計の代替                                    |
| 関係性       | P友<br>家族の個別化           | フルタイム・インティメート・コミュニティ<br>家族結束強化 |   |                        | 携帯伝言ダイヤル<br>通話相手の選別<br>リモートマザリング            |
| 規範        | 電話挨拶の省略<br>番号公開の制限     |                                | 利用場所制限  |                        | 番号公開の積極化                                    |

（注）実態調査（主に橋本他、2000）により、4割以上の回答率に下線、5割以上に文字囲みがつけてある。

P友=でたらめなPHS番号に電話して電話相手をさがすこと

リモートマザリング=携帯電話で離れたところから子供を管理すること

出所：中村（2001a）、p.78。

実現されつつあるといっている。

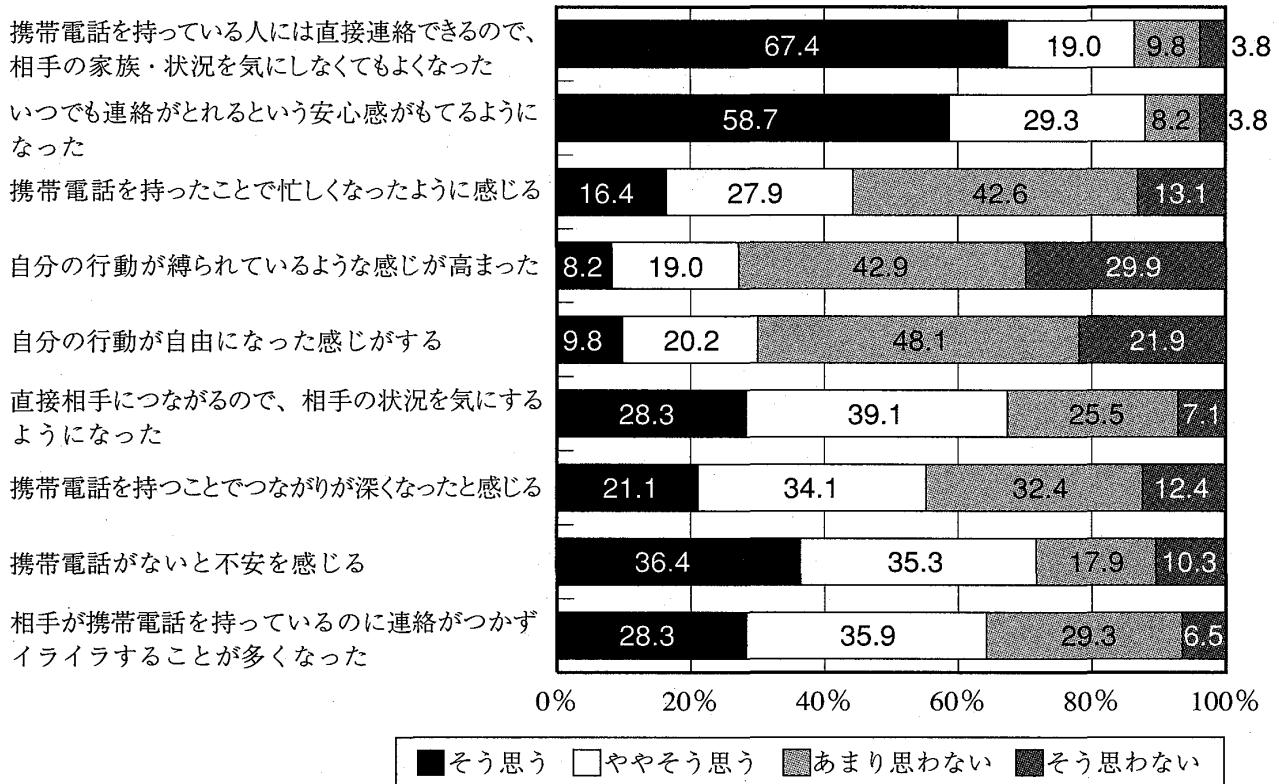
本研究では、中村（2001a）のフレームワークに基づき、携帯電話の通話機能とメール機能の影響を個別に明らかにしてみたい。

#### 4.2 意識面・行動面・関係性の変化

まず、携帯電話の影響を全体的にとらえておくことにする。図4は、携帯電話の意識面への影響について調査した結果である。直接化の影響としては、「携帯電話を持っている人には直接連絡できるので、相手の家族・状況を気にしなくてもよくなった」が86.4%（肯定的意見である「そう思う」と「ややそう思う」の合計。以下同じ。）で、多くの人が直接相手につながることの効用を感じている。しかし、その一方で、「直接相手につながるので、相手の状況を気にするようになった」（67.4%）、「相手が携帯電話を持っているのに連絡がつかずイライラすることが多くなった」（64.2%）という正反対の意見も多かった。直接相手につながることの裏返しとして、望ましくない側面も出てきているようである。

このように、携帯電話の影響が両義的に表れるのは、常態化の局面でも同様であった。常態化の影響として、「いつでも連絡がとれるという安心感がもてるようになった」（88.0%）が最も多かったが、「携帯電話がないと不安を感じる」（71.7%）という意見も多く、携帯電話への依存傾向が

図4 携帯電話の意識面への影響



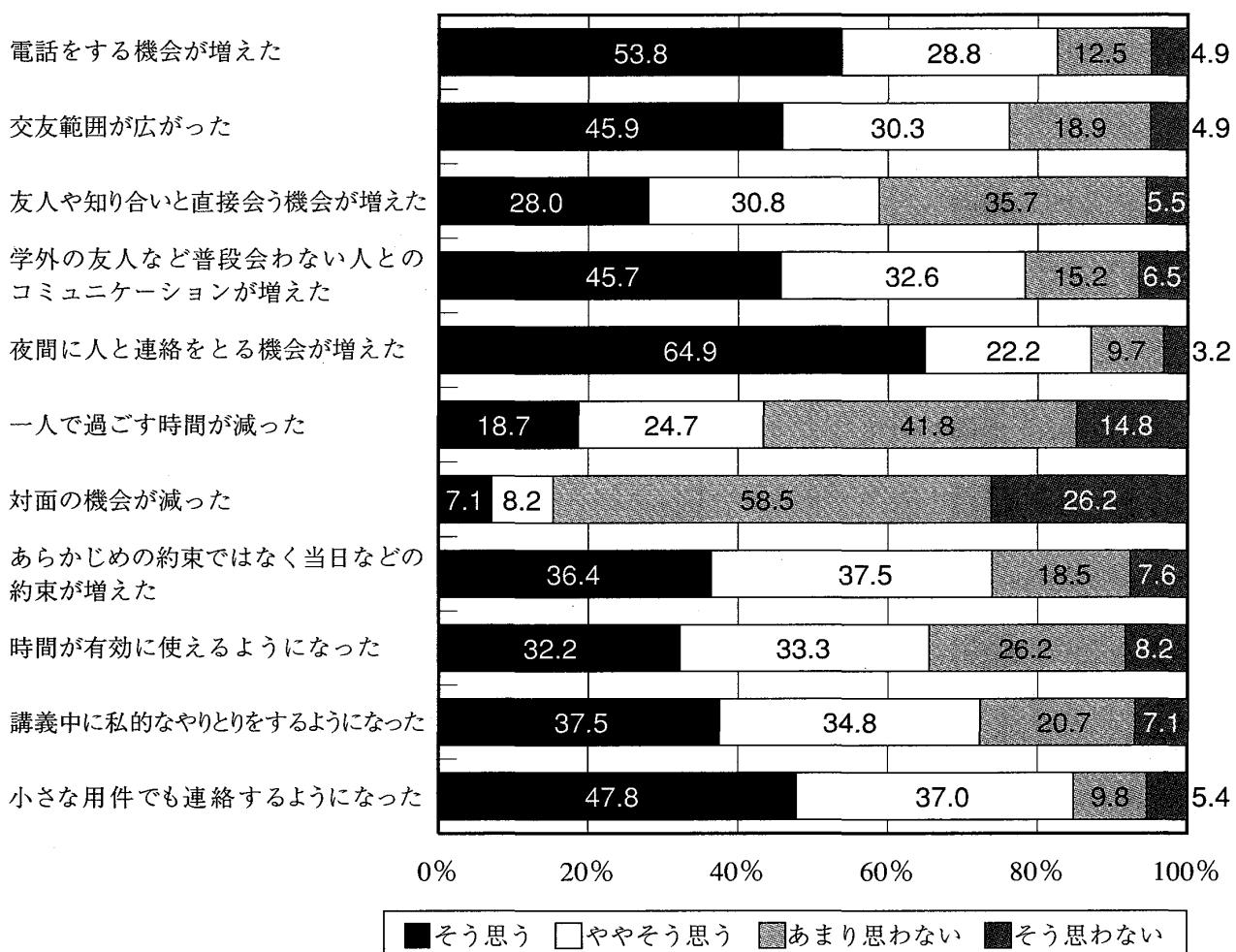
うかがえる。「携帯電話を持つことでつながりが深くなったと感じる」(55.2%) に対しては、携帯電話でやりとりし、会う機会が増えると「携帯電話を持ったことで忙しくなったように感じる」(44.3%) ことにもなる。これらは、肯定的意見と否定的意見が半々といった状況で、影響力は中程度といえる。

また、あまり強い影響ではないが、「自分の行動が自由になった感じがする」(30.0%) に対して、「自分の行動が縛られているような感じが高まった」(27.2%) という傾向がみられている。橋元他(2000)の調査でも、行動が自由になったような気がすると答えた人は34.2%、自分の行動が縛られているような感じがすると答えた人は36.4%となっており、この傾向は一貫している。

このように、携帯電話が若者の意識面に与える影響は、しばしば正反対の方向に表れ、両義的であるといえる。

次に、携帯電話の行動面への影響について調査した結果を図5に示す。全体的に行動面への影響は大きくなっている。簡便化の効果としては、単純に「電話をする機会が増えた」(82.6%) と

図5 携帯電話の行動面への影響

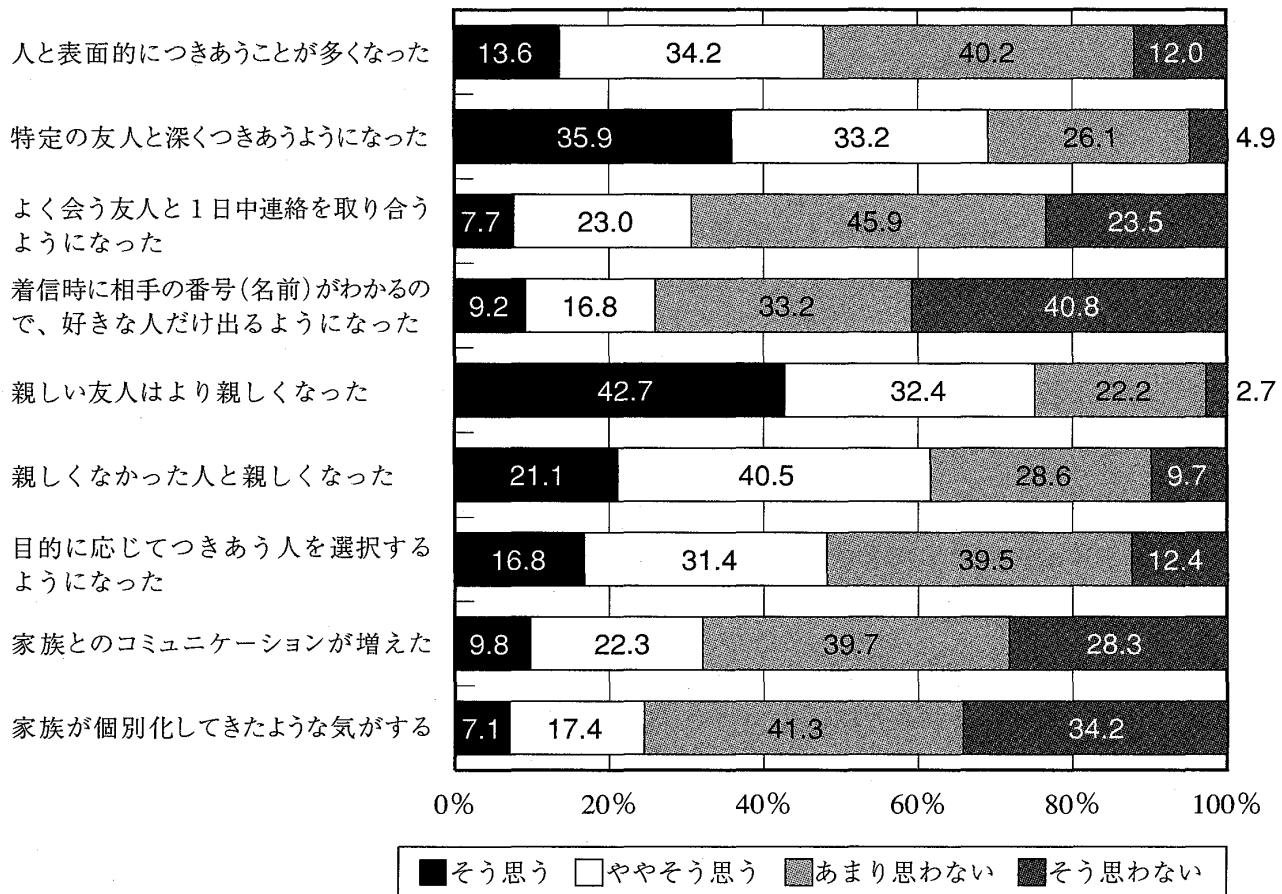


いう意見が多い。携帯電話は最も身近な通信手段となっており、固定電話と比べると移動中も電話できることが電話の機会を増やしていると考えられる。直接化、常態化の効果としては、「学外の友人など普段会わない人とのコミュニケーションが増えた」(78.3%)、「夜間に人と連絡をとる機会が増えた」(87.1%)、「講義中に私的なやりとりをするようになった」(72.3%)、「小さな用件でも連絡するようになった」(84.8%)などのコミュニケーションの増加や、「あらかじめの約束ではなく当日の約束が増えた」(73.9%)、「時間が有効に使えるようになった」(65.5%)などの行動の変化がみられる。

また、携帯電話利用は、対面の機会を減らすのではなく(15.3%)、むしろ友人や知り合いと直接会う機会を増やす傾向がある(58.8%)。これは、携帯電話が待ち合わせの連絡などに多く使われることから十分に予想された結果である。

関係性への影響については、図6に示すような結果となった。関係性については、中村(2001a)も述べているように、意識面、行動面に比べると全般的にあまり影響は大きくない。しかし、友人関係がより親密になるという傾向はうかがえる。「特定の友人と深くつきあうようになった」が69.1%、「親しい友人はより親しくなった」が75.1%、「親しくなかった人と親しくなった」が

図6 携帯電話の関係性への影響



61.6%となっている。

仲島他（1999）が主張するフルタイム・インティメート・コミュニティに関しては、「よく会う友人と1日中連絡を取り合うようになった」は30.7%であり、多少の影響はうかがえる結果となつたが、大きな影響ではなかった。また、選択的人間関係については、「着信時に相手の番号（名前）がわかるので、好きな人だけ出るようになった」が26.0%、「目的に応じてつきあう人を選択するようになった」が48.2%であった。選択的人間関係はたしかに存在すると考えられるが、多くの人が人間関係を選択的に構築しているとはいえないかった。また、「人と表面的につきあうことが多くなった」が47.8%となっており、携帯電話は広くて浅い人間関係を促進する傾向も否定できない結果となった。

家族との関係については、「家族とのコミュニケーションが増えた」が32.1%、「家族が個別化してきたような気がする」が24.5%となっており、家族関係を強化する方向と、解体する方向が同時にみられていたが、明確な方向性は定かではない。

以上に述べてきた意識面、行動面、関係性への影響は、通話機能とメール機能の影響が混在していると考えられる。そこで、次節において、両者の影響力の違いについて検討してみよう。

#### 4.3 通話利用・メール利用の影響

表4は、通話利用と意識面の関係について相関分析を行った結果である<sup>(1)</sup>。多くの利用次元と関係があったのは、「携帯電話を持ったことで忙しくなったように感じる」「携帯電話を持つことでつながりが深くなったと感じる」「自分の行動が自由になった感じがする」「自分の行動が縛られているような感じが高まった」「相手が携帯電話を持っているのに連絡がつかずイライラすることが多くなつた」である。これらは、前節で述べた単純集計の結果では、必ずしも肯定的意見は多くなかったが、通話頻度が多い人にとっては、その影響力は大きなものであることが明らかになつた。

一方、メール利用に関しては、表5に示すように、通話に比べると相関があつた項目は少なくなる。メールが増えるほど、意識面に与える影響が大きくなるとは言い難い状況であった。とくに、相手に直接つながり、いつでも連絡がとれるという安心感や、行動の束縛感・自由感は、メール利用が増えるにつれて知覚される効果ではなかつた。メール利用が増えるほど影響が大きくなるのは、「携帯電話を持つことでつながりが深くなつたと感じる」「携帯電話がないと不安を感じる」であった。携帯電話を持つことによる不安感は通話よりもメールに由来するようである。

表6は、通話利用と行動面の関係について、同様に分析した結果である。この表から、通話の行動面への影響は明らかであることがわかる。とくに、「電話をする機会が増えた」「一人で過ごす時間が減った」「友人や知り合いと直接会う機会が増えた」「夜間に人と連絡をとる機会が増えた」が多くの利用次元で関係がみられた。携帯電話を頻繁に利用する人ほど、昼夜連絡を取り合

うことによって、直接会う機会が増大し、結果として一人で過ごす時間が減っていることが明らかになった。

表4 通話利用と意識との相関関係

| 通話利用<br>意 識  | 発 信   | 着 信   | 現 沈 報 告 | ち ょ つ と し た 気 持 ち | 待 ち 合 わ せ の 連 絡 | お 誘 い | 相 手 の お 願 い を 断 る | 問 い 合 わ せ ・ 予 約 | 依 頼 ・ お 願 い | 相 談   | 情 報 提 供 | 特 に 用 件 は な い が<br>電 話 す る |
|--|-------|-------|---------|-------------------|-----------------|-------|-------------------|-----------------|-------------|-------|---------|----------------------------|
| 携帯電話を持ってい<br>る人には直接連絡で<br>きるので、相手の家<br>族・状況を気にしな<br>くてもよくなつた | .18*  | .25** | .18*    | .14               | .23**           | .21** | .14               | .00             | .12         | .06   | -.01    | .10                        |
| いつでも連絡が取れ<br>るという安心感がも<br>てるようになった                           | .05   | .16*  | .16*    | .14               | .07             | .04   | .10               | -.05            | .06         | .21** | -.03    | .18*                       |
| 携帯電話を持ったこ<br>とで忙しくなったよ<br>うに感じる                              | .24** | .26** | .29**   | .21**             | .15*            | .24** | .24**             | .18*            | .20**       | .10   | .25**   | .20**                      |
| 自分の行動が縛られ<br>ているような感じが<br>高まつた                               | .09   | .13   | .27**   | .14               | .11             | .15*  | .22**             | .16*            | .15*        | .12   | .18*    | .18*                       |
| 自分の行動が自由に<br>なつた感じがする  | .21** | .32** | .10     | .15*              | .19**           | .15*  | .21**             | .09             | .16*        | .21** | .12     | .13                        |
| 直接相手につながるの<br>で、相手の状況を気に<br>するようになった                         | .14   | .18*  | .05     | .14               | .16*            | .12   | .23**             | .09             | .16*        | .17*  | .10     | .10                        |
| 携帯電話を持つこと<br>でつながりが深くな<br>ったと感じる                             | .11   | .15*  | .26**   | .24**             | .15*            | .22** | .23**             | .10             | .18*        | .25** | .16*    | .12                        |
| 携帯電話がないと不<br>安を感じる   | .13   | .12   | .17*    | .18*              | .01             | .09   | .10               | .07             | .16*        | .27** | .01     | .26**                      |
| 相手が携帯電話を持<br>っているのに連絡が<br>つかずイライラする<br>ことが多くなつた              | .11   | .15*  | .18*    | .22**             | .12             | .18*  | .22**             | .05             | .17*        | .24** | -.04    | .14                        |

(注) \*p&lt;0.05、 \*\*p&lt;0.01

また、表7は、メール利用と行動面の関係について示したものである。メールについても通話と同様に、行動面への影響は明確であった。とくに、「夜間に人と連絡をとる機会が増えた」「一

表5 メール利用と意識との相関関係

| メール利用<br>意 識                                | 送<br>信 | 受<br>信 | 現<br>況<br>報<br>告 | ち<br>ょ<br>つ<br>と<br>し<br>た<br>気<br>持<br>ち | 待ち合<br>わせの連<br>絡 | お<br>誘<br>い | 相<br>手<br>の<br>お<br>願<br>い<br>を<br>断<br>る | 問<br>い<br>合<br>わ<br>せ<br>・<br>予<br>約 | 依<br>頼<br>・<br>お<br>願<br>い | 相<br>談 | 情<br>報<br>提<br>供 | 特<br>に<br>用<br>件<br>は<br>な<br>い<br>が |
|---|--------|--------|------------------|---|------------------|-------------|---|--------------------------------------|----------------------------|--------|------------------|--------------------------------------|
| 携帯電話を持っている人には直接連絡できるので、相手の家族・状況を気にしなくてよくなつた | .06    | .05    | .07              | .15*                                      | -.05             | .02         | .01                                       | .01                                  | .02                        | .11    | .03              | .07                                  |
| いつでも連絡が取れるという安心感がもてるようになった                  | .06    | .05    | .07              | .24**                                     | -.08             | -.01        | .11                                       | .06                                  | .01                        | .14    | -.06             | .16*                                 |
| 携帯電話を持ったことで忙しくなつたように感じる                     | .05    | .07    | .10              | .23**                                     | -.05             | -.02        | .11                                       | .16*                                 | .15*                       | .11    | .22**            | .06                                  |
| 自分の行動が縛られているような感じが高まつた                      | -.05   | -.02   | .10              | .14                                       | .02              | -.00        | .10                                       | .09                                  | .09                        | .01    | .14              | -.07                                 |
| 自分の行動が自由になつた感じがする                           | .12    | .13    | .04              | .14                                       | .00              | .04         | .16*                                      | .20**                                | -.01                       | .11    | .09              | .07                                  |
| 直接相手につながるので、相手の状況を気にするようになった                | .10    | .05    | .09              | .17*                                      | .06              | .02         | .06                                       | .17*                                 | .08                        | .18*   | .08              | .10                                  |
| 携帯電話を持つことでつながりが深くなったと感じる                    | .26**  | .24**  | .25**            | .40**                                     | .16*             | .23**       | .28**                                     | .29**                                | .24**                      | .35**  | .14              | .17*                                 |
| 携帯電話がないと不安を感じる                              | .15*   | .12    | .16*             | .30**                                     | .01              | .15*        | .16*                                      | .13                                  | .16*                       | .36**  | .11              | .30**                                |
| 相手が携帯電話を持っているのに連絡がつかずイライラすることが多くなつた         | .11    | .11    | .15*             | .22**                                     | -.04             | .10         | .20**                                     | -.01                                 | .12                        | .26**  | .11              | .24**                                |

(注) \*p&lt;0.05、 \*\*p&lt;0.01

人で過ごす時間が減った」「交友範囲が広がった」「講義中に私的なやりとりをするようになった」との関係が強い。通話利用との違いでは、メール利用では「交友範囲が広がった」「学外の友人など普段会わない人とのコミュニケーションが増えた」との関係が強くなる。通話は身近な親友と直接会うことにつながるが、メールでは、通話に比べるとコミュニケーション範囲を拡大する傾

表6 通話利用と行動との相関関係

| 通話利用<br>行 動                   | 発<br>信 | 着<br>信 | 現<br>況<br>報<br>告 | ちょ<br>う<br>と<br>し<br>た<br>気<br>持<br>ち | 待ち<br>合<br>わ<br>せ<br>の<br>連<br>絡 | お<br>誘<br>い | 相<br>手<br>の<br>お<br>願<br>い<br>を<br>断<br>る | 問<br>い<br>合<br>わ<br>せ<br>・<br>予<br>約 | 依<br>頼<br>・<br>お<br>願<br>い | 相<br>談 | 情<br>報<br>提<br>供 | 特<br>に<br>用<br>件<br>は<br>な<br>い<br>が<br>電<br>話<br>す<br>る |
|-------------------------------|--------|--------|------------------|---------------------------------------|----------------------------------|-------------|---|--------------------------------------|----------------------------|--------|------------------|--|
| 電話をする機会が増えた                   | .50**  | .58**  | .32**            | .28**                                 | .37**                            | .44**       | .27**                                     | .18*                                 | .27**                      | .22**  | .30**            | .20**  |
| 交友範囲が広がった                     | .19*   | .33**  | .22**            | .15*                                  | .21**                            | .31**       | .19*                                      | -.02                                 | .13                        | .12    | .10              | .25**  |
| 友人や知り合いと直接会う機会が増えた            | .25**  | .32**  | .23**            | .25**                                 | .25**                            | .35**       | .30**                                     | .11                                  | .15*                       | .14    | .24**            | .20**  |
| 学外の友人など普段会わない人とのコミュニケーションが増えた | .05    | .15*   | .09              | .24**                                 | .17*                             | .14         | .23**                                     | .14                                  | .22**                      | .25**  | .16*             | .24**  |
| 夜間に人と連絡を取る機会が増えた              | .27**  | .35**  | .25**            | .10                                   | .29**                            | .33**       | .17*                                      | .10                                  | .28**                      | .26**  | .11              | .21**  |
| 一人で過ごす時間が減った                  | .30**  | .36**  | .29**            | .32**                                 | .19*                             | .29**       | .19**                                     | .06                                  | .15*                       | .22**  | .19*             | .21**  |
| 対面の機会が減った                     | .18*   | .18*   | .23**            | .24**                                 | .17*                             | .13         | .25**                                     | .05                                  | .08                        | .19*   | .11              | .23**  |
| あらかじめの約束ではなく当日などの約束が増えた       | .17*   | .36**  | .15*             | .12                                   | .18*                             | .27**       | .17*                                      | .13                                  | .20**                      | .13    | .15*             | .16*   |
| 時間が有効に使えるようになった               | .14    | .23**  | .20**            | .15*                                  | .22**                            | .28**       | .29**                                     | .17*                                 | .24**                      | .08    | .15*             | .13  |
| 講義中に私的なやりとりをするようになった          | .04    | .15*   | .08              | .06                                   | .05                              | .12         | .13                                       | -.04                                 | .17*                       | .25**  | .03              | .12  |
| 小さな用件でも連絡するようになった             | .12    | .24**  | .29**            | .32**                                 | .02                              | .08         | .08                                       | .01                                  | .21**                      | .24**  | .09              | .28**  |

(注) \*p&lt;0.05、 \*\*p&lt;0.01

向があると考えられる。逆に、「あらかじめの約束ではなく当日などの約束が増えた」「時間が有効に使えるようになった」については、メールよりも通話の方が大きな影響を与えていた。これは、通話の方が直接性、相互作用性がより強いメディアであるためと考えられる。「講義中に私的なやりとりをするようになった」は、その是非はともかくとして、メールならではの影響である

表7 メール利用と行動との相関関係

| メール利用<br>行 動                  | 送<br>信 | 受<br>信 | 現況<br>報告 | ち<br>ょ<br>つ<br>と<br>し<br>た<br>気<br>持<br>ち | 待ち合<br>わせの<br>連絡 | お<br>誘<br>い | 相<br>手<br>の<br>お<br>願<br>い<br>を<br>断<br>る | 問<br>い<br>合<br>わ<br>せ<br>・<br>予<br>約 | 依<br>頼<br>・<br>お<br>願<br>い | 相<br>談 | 情<br>報<br>提<br>供 | 特<br>に<br>用<br>件<br>は<br>な<br>い<br>が<br>メ<br>ー<br>ル<br>す<br>る |
|-------------------------------|--------|--------|----------|---|------------------|-------------|---|--------------------------------------|----------------------------|--------|------------------|---|
| 電話をする機会が増えた                   | .22**  | .21**  | .18*     | .31**                                     | -.09             | .11         | .07                                       | .14                                  | .12                        | .16*   | .24**            | .12   |
| 交友範囲が広がった                     | .26**  | .24**  | .17*     | .30**                                     | .16*             | .24**       | .14                                       | .19*                                 | .15*                       | .24**  | .16*             | .27**   |
| 友人や知り合いと直接会う機会が増えた            | .14    | .13    | .13      | .24**                                     | .06              | .19*        | .08                                       | .11                                  | .12                        | .18*   | .20**            | .19*  |
| 学外の友人など普段会わない人とのコミュニケーションが増えた | .15*   | .15*   | .27**    | .27**                                     | .13              | .24**       | .18*                                      | .17*                                 | .13                        | .21**  | .13              | .23**   |
| 夜間に人と連絡を取る機会が増えた              | .30**  | .24**  | .25**    | .29**                                     | .10              | .27**       | .26**                                     | .18*                                 | .32**                      | .27**  | .21**            | .25**   |
| 一人で過ごす時間が減った                  | .37**  | .33**  | .16*     | .32**                                     | .08              | .22**       | .14                                       | .23**                                | .20**                      | .25**  | .21**            | .16*  |
| 対面の機会が減った                     | .07    | .05    | .19**    | .25**                                     | -.11             | -.07        | .21**                                     | .26**                                | .11                        | .14    | .09              | .17*  |
| あらかじめの約束ではなく当日などの約束が増えた       | .17*   | .10    | .10      | .11                                       | -.10             | .04         | .02                                       | .13                                  | .14                        | .16*   | .17*             | .14   |
| 時間が有効に使えるようになった               | .16*   | .14    | .22**    | .27**                                     | -.07             | .07         | .02                                       | .20**                                | .12                        | .09    | .22**            | .08   |
| 講義中に私的なやりとりをするようになった          | .36**  | .31**  | .16*     | .20**                                     | -.07             | .20**       | .19*                                      | .08                                  | .23**                      | .25**  | .21**            | .31**   |
| 小さな用件でも連絡するようになった             | .30**  | .30**  | .22**    | .33**                                     | -.02             | .11         | .17*                                      | .14                                  | .18*                       | .20**  | .29**            | .34**   |

(注) \*p&lt;0.05、 \*\*p&lt;0.01

といえる。

表8は、通話利用と関係性の関係について分析した結果である。全般的に通話が増えても関係性への影響は大きくならないようである。通話利用と最も関連していたのは、「家族が個別化してきたような気がする」であった。通話は、家族とのコミュニケーションを増やすというよりも、家族を個別化するような影響を与えていたようである。また、あまり強い関係ではないが、「よく会う友人と1日中連絡を取り合うようになった」と「人と表面的につきあうことが多くなった」

表8 通話利用と関係性との相関関係

| 通話利用<br>関係性                        | 発<br>信 | 着<br>信 | 現<br>況<br>報<br>告 | ちょ<br>つ<br>と<br>し<br>た<br>気<br>持<br>ち | 待ち<br>合<br>わ<br>せ<br>の<br>連<br>絡 | お<br>誘<br>い | 相<br>手<br>の<br>お<br>願<br>い<br>を<br>断<br>る | 問<br>い<br>合<br>わ<br>せ<br>・<br>予<br>約 | 依<br>頼<br>・<br>お<br>願<br>い | 相<br>談 | 情<br>報<br>提<br>供 | 特<br>に<br>用<br>件<br>は<br>な<br>い<br>が |
|------------------------------------|--------|--------|------------------|---------------------------------------|----------------------------------|-------------|---|--------------------------------------|----------------------------|--------|------------------|--------------------------------------|
| 人と表面的につきあうことが多なくなった                | .21**  | .20**  | .22**            | .18*                                  | .14                              | .18*        | .22**                                     | .03                                  | .14                        | .15*   | .05              | .08                                  |
| 特定の友人と深くつきあうようになった                 | .08    | .15*   | .16*             | .01                                   | .02                              | .04         | .02                                       | -.01                                 | .04                        | .10    | .06              | .08                                  |
| よく会う友人と1日中連絡を取り合うようになった            | .26**  | .26**  | .34**            | .34**                                 | .05                              | .07         | .09                                       | .09                                  | .08                        | .30**  | .19**            | .30**                                |
| 着信時に相手の番号(名前)がわかるので、好きな人だけ出るようになった | .08    | .08    | .17*             | .17*                                  | .06                              | .06         | .04                                       | .10                                  | .11                        | .09    | -.10             | .17*                                 |
| 親しい友人はより親しくなった                     | .15*   | .23**  | .20**            | .07                                   | .03                              | .14         | .10                                       | .07                                  | .21**                      | .20**  | .10              | .11                                  |
| 親しくなかった人と親しくなった                    | -.02   | .05    | .12              | .18*                                  | .05                              | .04         | .11                                       | .05                                  | .07                        | .11    | .11              | .24**                                |
| 目的に応じてつきあう人を選択するようになった             | .11    | .24**  | .10              | .18*                                  | .04                              | -.01        | .18*                                      | .06                                  | .15*                       | .13    | -.01             | .28**                                |
| 家族とのコミュニケーションが増えた                  | .11    | .12    | .14              | .25**                                 | .08                              | .12         | .23**                                     | .14                                  | .18*                       | .18*   | .14              | .25**                                |
| 家族が個別化してきたような気がする                  | .16*   | .17*   | .20**            | .26**                                 | .15                              | .20**       | .20**                                     | .03                                  | .09                        | .16*   | .18*             | .27**                                |

(注) \*p<0.05、 \*\*p<0.01

という傾向もみられ、同時に正反対の影響が表れている。

これに対して、メール利用との関係については、表9に示すように、通話よりも有意な関係が多くかった。メールをやりとりする頻度が増えるほど、「親しい友人はより親しくなった」「よく会う友人と1日中連絡を取り合うようになった」「特定の友人と深くつきあうようになった」「目的に応じてつきあう人を選択するようになった」という傾向がみられる。ところで、通話では、「特定の友人と深くつきあうようになった」との関係はあまりなかった。また、通話とメールの両方

表9 メール利用と関係性との相関関係

| メール利用<br>関係性                       | 送<br>信 | 受<br>信 | 現況報告  | ちょ<br>つと<br>した<br>気持<br>ち | 待ち合<br>わせの連<br>絡 | お<br>誘<br>い | 相<br>手の<br>お願<br>いを<br>断<br>る | 問<br>い合<br>わせ・予<br>約 | 依<br>頼・お<br>願<br>い | 相<br>談 | 情<br>報<br>提<br>供 | 特<br>に用<br>件は<br>ない<br>が<br>メ<br>ール<br>す<br>る |
|------------------------------------|--------|--------|-------|---------------------------|------------------|-------------|-------------------------------|----------------------|--------------------|--------|------------------|---|
| 人と表面的につきあうことが多くなった                 | .05    | .03    | .13   | .19*                      | .11              | .12         | .28**                         | .22**                | .19*               | .24**  | .31**            | .20**   |
| 特定の友人と深くつきあうようになった                 | .20**  | .19**  | .19*  | .18*                      | .16*             | .24**       | .20**                         | .15*                 | .21**              | .17*   | .12              | .16*  |
| よく会う友人と1日中連絡を取り合うようになった            | .26**  | .22**  | .22** | .29**                     | .02              | .20**       | .17*                          | .21**                | .12                | .27**  | .24**            | .32**   |
| 着信時に相手の番号(名前)がわかるので、好きな人だけ出るようになった | -.09   | -.10   | .02   | .06                       | -.01             | -.07        | .12                           | -.07                 | -.04               | -.02   | -.20**           | .10   |
| 親しい友人はより親しくなった                     | .33**  | .28**  | .19** | .21**                     | .26**            | .25**       | .25**                         | .23**                | .29**              | .18*   | .16*             | .18*  |
| 親しくなった人と親しくなった                     | .11    | .08    | .09   | .16*                      | .04              | .05         | .08                           | .10                  | .04                | .19**  | .10              | .17*  |
| 目的に応じてつきあう人を選択するようになった             | .17*   | .18*   | .16*  | .23**                     | .01              | .10         | .20**                         | .29**                | .16*               | .23**  | .17*             | .24**   |
| 家族とのコミュニケーションが増えた                  | .01    | .00    | .16*  | .20**                     | -.01             | -.04        | -.01                          | .11                  | .07                | .13    | .09              | .12   |
| 家族が個別化してきたような気がする                  | .04    | .02    | -.01  | .05                       | -.03             | .04         | .09                           | .21**                | .09                | .20**  | .12              | .06   |

(注) \*p<0.05、 \*\*p<0.01

とも、「親しくなかった人と親しくなった」との関係もあまりなかった。これらのことから、メール利用の増加は、親しい友人との関係をより深化させる傾向があり、中村（2001a、2001b）が述べたように、フルタイム・インティメート・コミュニティは主にメール機能で実現されつつあるといえよう。

また、通話やメールが増えても、「着信時に相手の番号（名前）がわかるので、好きな人だけ出るようになった」という番通選択を行う傾向はほとんどみられなかつた。この理由としては、携帯電話は普段よく会っている親しい友人との間でやりとりされることから、番通選択の必要性があまりなかつたことや、番通選択はメモリに登録されていない（知らない）相手からの電話に対して行われることなどが考えられる。

#### 4.4 個人差の影響

携帯電話利用に影響を及ぼす個人差として、まず社交性の高さに注目した。携帯電話は、すでにみたように、友人との待ち合わせなど私的な連絡に使われる傾向があることから、社交的で活動的なことや、人づきあいのよいことが、携帯電話利用と関係していると予想されるからである（松田他、1998；仲島他、1999）。また、個人のデモグラフィック要因としては、携帯電話の利用年数、性別、恋人の有無を取り上げた。

表10に、意識面への個人差の影響について分析した結果を示す<sup>(2)</sup>。社交性の各項目と利用年数については相関分析を行い、性別と恋人の有無については平均値の差の検定（t検定）を行つた。t検定の結果については、有意に高い方が示してある（後述する表11、12についても同様）。

表10から、社交的な人ほど「携帯電話を持ったことで忙しくなったように感じる」「携帯電話を持つことでつながりが深くなったと感じる」「自分の行動が自由になった感じがする」という傾向が強かつた。社交性は、相手の状況を気にしなくてもよくなつたという意識、自分の行動が縛られているといった拘束感、連絡がつかずイライラすることとは関係がなかつた。また、携帯電話の利用年数が長くなるにつれて、意識面への影響は大きくなる傾向がある。性別では、女性の方が、携帯電話を持つことでつながりが深くなり、携帯電話がないと不安を感じるという傾向があり、男性に比べて社会的関係を重視するといわれる女性のコミュニケーション行動を反映した結果となっている。恋人の有無では、恋人がいる人の方が、相手に直接連絡できる、相手にいつでも連絡がとれると感じる傾向があり、親密な関係を維持するのに携帯電話が効果的であることを示しているが、同時に、行動の束縛感、相手に連絡がつかないことによるイライラ感も高まる傾向があつた。

表11は、行動面への個人差の影響を分析した結果である。行動面でも社交性の高い人は「電話をする機会が増えた」「交友範囲が広がつた」「友人や知り合いと直接会う機会が増えた」「学外の友人など普段会わない人とのコミュニケーションが増えた」「一人で過ごす時間が減つた」という

表10 意識面への個人差の影響

| 個人差<br>意 識                                   | 知らない人と話すのは気にならない<br>人と話すのが好きだ | よく人とあつてている | 飲み会の幹事・何かの集まりでリーダーをすることが多い | 人からよく相談される | けるほうだ | 社交的な集まりにはよく出かける | サークル・部活動などの学内の活動に参加している | 自分でなんらかの活動に参加している | 自分は活動的である | 友人が多い | 利用年数  | 性 別  | 恋人の有無 |
|--|-------------------------------|------------|----------------------------|------------|-------|-----------------|-------------------------|-------------------|-----------|-------|-------|------|-------|
| 携帯電話を持つている人には直接連絡できるので、相手の家族・状況を気にしなくてもよくなつた | .07                           | -.02       | .04                        | -.07       | .11   | .01             | -.01                    | -.03              | -.01      | .01   | .19*  | n.s. | 有*    |
| いつでも連絡が取れるという安心感がもてるようになった                   | .23**                         | .22**      | .10                        | .03        | .15*  | .14             | .05                     | -.02              | .26**     | .29** | .16*  | n.s. | 有*    |
| 携帯電話を持ったことで忙しくなつたように感じる                      | .16*                          | .15*       | .25**                      | .15*       | .17*  | .23**           | .07                     | .16*              | .19**     | .16*  | .26** | n.s. | n.s.  |
| 自分の行動が縛られているような感じが高まつた                       | .12                           | -.02       | .14                        | .13        | .04   | .14             | -.00                    | .06               | .13       | .05   | .17*  | n.s. | 有*    |
| 自分の行動が自由になった感じがする                            | .30**                         | .19*       | .18*                       | .14        | .12   | .20**           | .09                     | .15*              | .15*      | .22** | .16*  | n.s. | n.s.  |
| 直接相手につながるので、相手の状況を気にするようになった                 | .20**                         | .17*       | .16*                       | .02        | .04   | .12             | .10                     | .09               | .16*      | .05   | .19*  | n.s. | n.s.  |
| 携帯電話を持つことでつながりが深くなつたと感じる                     | .19**                         | .22**      | .24**                      | .13        | .25** | .28**           | .17                     | .06               | .24**     | .33** | .10   | 女*   | n.s.  |
| 携帯電話がないと不安を感じる                               | .06                           | .24**      | .28**                      | .07        | .11   | .18*            | .10                     | .05               | .17*      | .12   | .12   | 女*   | n.s.  |
| 相手が携帯電話を持っているのに連絡がつかずイライラすることが多くなつた          | .05                           | .09        | .25**                      | .07        | .04   | .04             | .04                     | .06               | .09       | -.04  | .22** | n.s. | 有*    |

(注) \*p&lt;0.05、\*\*p&lt;0.01、n.s. 有意差なし

傾向が強くなり、社交的な人ほど携帯電話で友人関係を拡大し、会う機会も増加する傾向にあることが明らかになった。また、携帯電話の利用年数が増加するほど、意識面と同様に行動面への

表11 行動面への個人差の影響

| 個人差                          | 知らない人と話すのは気にならない | 人と話すのが好きだ | よく人とあつていている | 飲み会の幹事・何かの集まりでリーダーをすることが多い | 人からよく相談される | 社交的な集まりにはよく出かけるほうだ | サークル・部活動などの学内の活動に参加している | 学外でなんらかの活動に参加している | 自分は活動的である | 友人が多い | 利用年数  | 性別   | 恋人の有無 |
|------------------------------|------------------|-----------|-------------|----------------------------|------------|--------------------|-------------------------|-------------------|-----------|-------|-------|------|-------|
| 行動                           |                  |           |             |                            |            |                    |                         |                   |           |       |       |      |       |
| 電話をする機会が増えた                  | .23**            | .26**     | .36**       | .13                        | .18*       | .37**              | .02                     | .12               | .31**     | .23** | .29** | 男†   | 有**   |
| 交友範囲が広がった                    | .26**            | .34**     | .38**       | .17*                       | .21**      | .39**              | .06                     | .16*              | .32**     | .42** | .14   | n.s. | n.s.  |
| 友人や知り合いと直接会う機会が増えた           | .14              | .21**     | .32**       | .08                        | .17*       | .34**              | .05                     | .04               | .17*      | .25** | .23** | n.s. | n.s.  |
| 学外の友人など普段会わない人のコミュニケーションが増えた | .22**            | .28**     | .26**       | .17*                       | .22**      | .39**              | .06                     | .12               | .19**     | .29** | .17*  | n.s. | n.s.  |
| 夜間に人と連絡を取る機会が増えた             | .17*             | .21**     | .26**       | .17*                       | .19**      | .25**              | .08                     | .09               | .19**     | .18*  | .22** | n.s. | n.s.  |
| 一人で過ごす時間が減った                 | .23**            | .31**     | .45**       | .15*                       | .27**      | .42**              | .10                     | .08               | .40**     | .39** | .17** | n.s. | n.s.  |
| 対面の機会が減った                    | .23**            | .03       | -.00        | .03                        | .09        | .15                | -.00                    | -.07              | .06       | .09   | .20** | n.s. | n.s.  |
| あらかじめの約束ではなく当日などの約束が増えた      | .17*             | .15*      | .25**       | .09                        | .10        | .19*               | .02                     | .13               | .26**     | .14   | .21** | n.s. | 有*    |
| 時間が有効に使えるようになった              | .09              | .15*      | .27**       | .11                        | .12        | .25**              | .08                     | .12               | .27**     | .23** | .27** | n.s. | n.s.  |
| 講義中に私的なやりとりをするようになった         | .10              | .23**     | .15*        | .05                        | .09        | .06                | -.02                    | .03               | .02       | .04   | .18*  | 男†   | n.s.  |
| 小さな用件でも連絡するようになった            | .17*             | .25**     | .22**       | .06                        | .18*       | .10                | -.06                    | .16*              | .13       | .14   | .14   | n.s. | n.s.  |

(注) †p<0.1、\*p<0.05、\*\*p<0.01、n.s. 有意差なし

影響も強くなる。性別では、男性の方が電話をする機会が増え、講義中の私的なやりとりが増える傾向がみられる。また、恋人がある人も同様に電話の機会が増え、当日の約束が増える傾向がある。

表12は、関係性への個人差の影響を示したものである。関係性については、社交的な人ほど

表12 関係性への個人差の影響

| 個人差<br>関係性                         | 知らない人と話すのは気にならない | 人と話すのが好きだ | よく人とあつてている | 飲み会の幹事・何かの集まりでリーダーをすることが多い | 人からよく相談される | 社交的な集まりにはよく出かけるほうだ | サークル・部活動などの学内の活動に参加している | 学外でなんらかの活動に参加している | 自分は活動的である | 友人が多い | 利用年数  | 性別   | 恋人の有無 |
|------------------------------------|------------------|-----------|------------|----------------------------|------------|--------------------|-------------------------|-------------------|-----------|-------|-------|------|-------|
| 人と表面的につきあうことが多くなった                 | .08              | .07       | .10        | -.03                       | .06        | .05                | -.03                    | -.07              | .05       | .06   | .10   | n.s. | n.s.  |
| 特定の友人と深くつきあうようになった                 | .07              | .10       | .17*       | -.05                       | .16*       | .15                | .13                     | -.15*             | .13       | .24** | .04   | n.s. | n.s.  |
| よく会う友人と1日中連絡を取り合うようになった            | .31**            | .29**     | .28**      | .23**                      | .31**      | .24**              | -.08                    | -.01              | .18*      | .24** | .14   | 女*   | n.s.  |
| 着信時に相手の番号（名前）がわかるので、好きな人だけ出るようになった | .13              | -.06      | -.04       | .07                        | .01        | .05                | -.08                    | -.09              | -.12      | -.05  | .21** | n.s. | n.s.  |
| 親しい友人はより親しくなった                     | .13              | .21**     | .22**      | .04                        | .23**      | .09                | .04                     | -.07              | .13       | .31** | .06   | n.s. | n.s.  |
| 親しくなかった人と親しくなった                    | .15*             | .26**     | .20**      | .16*                       | .16*       | .30**              | .08                     | .08               | .13       | .20** | .11   | n.s. | n.s.  |
| 目的に応じてつきあう人を選択するようになった             | .14              | .10       | .19**      | .16*                       | .04        | .17*               | .06                     | .07               | .04       | .14   | .16*  | n.s. | n.s.  |
| 家族とのコミュニケーションが増えた                  | .22**            | .23**     | .24**      | .24**                      | .12        | .28**              | .23**                   | .07               | .17       | .24** | .21** | n.s. | n.s.  |
| 家族が個別化してきたような気がする                  | .12              | .11       | .13        | .20**                      | .13        | .09                | .01                     | .11               | .06       | .03   | .18*  | 男*   | n.s.  |

(注) \*p<0.05、\*\*p<0.01、n.s. 有意差なし

「家族とのコミュニケーションが増えた」「よく会う友人と1日中連絡を取り合うようになった」「親しくなかった人と親しくなった」という傾向があり、社交的な人は、よく会う友人だけでなく、親しくなかった人や家族など幅広い人間関係の場において携帯電話の効果を得ていると思われる。

また、携帯電話の利用年数は、意識面、行動面と比べると、関係性の面にはあまり強い影響を与えていなかった。つまり、単に携帯電話を長く使っているだけで関係性に影響が表れるとは言い難い。性別では、女性の方が、よく会う友人と1日中連絡を取り合う傾向があり、男性の方が家族が個別化してきたと感じる傾向があった。

なお、社交性については、社交的な人だから携帯電話による意識面、行動面、関係性の変化が大きくなるのか、あるいは携帯電話で意識面、行動面、関係性が変化するから、社交的な人格特性や行動が形成されるのかは、両方の解釈が可能である。上述してきたのは1つの解釈にすぎないことを付け加えておく。

#### 4.5 満足度の規定要因

携帯電話に対する満足度は、「とても満足している」(29.7%)、「やや満足している」(56.2%)、「やや不満」(11.9%)、「不満」(2.2%)であった。仲島他(1999)によると、1997年から1999年にかけて行われた4つの実態調査において、満足度の分布に大きな変化はなく、非常に満足が1割、どちらかといえば満足が5~6割、不満は約2割であったと述べている。これに比べると、今回の調査では、非常に満足する割合が増え、不満の割合が減っているようである。

また、仲島他(1999)によると、利用頻度の影響について、利用頻度が低いと携帯電話の効用が十分に得られず、利用頻度が高すぎると負の効用が増すので、「多すぎず、しかも少なすぎない適切な利用レベルが満足度を極大化させる」と述べているが、月々の利用料金、電話の利用頻度、メールの利用頻度は、それぞれ満足度と曲線回帰関係はなかった。したがって、満足度を最大化する利用レベルの存在は確認できなかった（ただし、通話の着信数と満足度の間には直線的な回帰関係がみられていた）。

そこで、携帯電話の満足度に影響を与える他の要因として、携帯電話の効用と個人差について分析した。

意識面では、「いつでも連絡がとれるという安心感が持てるようになった」（相関係数の検定、 $p < 0.01$ ）、「自分の行動が自由になった感じがする」（同、 $p < 0.01$ ）、「携帯電話を持つことでつながりが深くなったと感じる」（同、 $p < 0.01$ ）が満足度と関係があった。同様に、行動面では、「電話をする機会が増えた」（同、 $p < 0.01$ ）、「交友範囲が広がった」（同、 $p < 0.01$ ）、「友人や知り合いと直接会う機会が増えた」（同、 $p < 0.05$ ）、「学外の友人など普段会わない人のコミュニケーションが増えた」（同、 $p < 0.01$ ）、「一人で過ごす時間が減った」（同、 $p < 0.05$ ）、「時間が有效地に使えるようになった」（同、 $p < 0.01$ ）が満足度と有意な関係にあった。

関係性の面では、「特定の友人と深くつきあうようになった」(同、 $p < 0.05$ )、「親しい友人はより親しくなった」(同、 $p < 0.01$ )、「家族とのコミュニケーションが増えた」(同、 $p < 0.01$ )が有意となった。

これらの有意となった項目を説明変数として、満足度を被説明変数とする重回帰分析（ステップワイズ法）を行ったところ、「いつでも連絡がとれるという安心感が持てるようになった」( $\beta = 0.21$ 、 $p < 0.01$ )、「時間が有効に使えるようになった」( $\beta = 0.17$ 、 $p < 0.05$ )、「家族とのコミュニケーションが増えた」( $\beta = 0.15$ 、 $p < 0.05$ )が最も影響力のある変数として浮上した（調整済み $R^2 = 0.12$ 、 $F = 8.83$ 、 $p < 0.000$ ）。

個人差では、性別、恋人の有無で満足度に有意差はみられなかったが、利用年数では正の関係があった。利用年数が増加するほど満足度は向上する傾向がある。また、「社交的な集まりにはよく出かけるほうだ」「自分は活動的である」「友人が多い」と答えた人ほど満足度は高まる傾向があった。

#### 4.6 良い面・悪い面

携帯電話の影響はときとして正反対の方向に表れることは、すでに明らかにした通りである。そこで、携帯電話利用は具体的にどのような「良い面」と「悪い面」があるのか、自由記述式で回答してもらった。それぞれについて、回答が多かった順に列挙すると次のようになる。

##### 【良い面】

###### ①連絡が容易

最も多かったのは、「連絡が容易」ということであった。携帯電話は、ほとんどの若者が持っている（ユニバーサル・アクセスに達している）ことと、常時電源ONで持ち歩いているために、固定電話やパソコンの電子メールに比べると相手へのアクセス可能性は格段に高い。外出が多い若者にとって、いつでも、どこでも、すぐに連絡がつくことは最も大きなメリットとなっている。「どんなときでも相手の番号と電波があればつながるので、とても便利な気がする。」「良い面はやはり、いつでも連絡がとれるということです。待ち合わせでも、携帯を持っていれば、すぐに連絡をとって会うことができます。」「親に自分の状況をいつでもいえるので、親がかなり安心する。」「ほとんどの人が持っているため、連絡がとりやすくなつた。つねに持ち歩いているので、忙しくないときなどは連絡がとれるので便利だと思う。」「人との連絡がすぐつき、情報交換などが簡単にできるようになった。」

###### ②緊急時の連絡

これは広い意味では上記①の「連絡が容易」に含まれるが、緊急時に便利であるという指摘が多かったため、別項目とした。即時性が強調されている。

「やはり、緊急時に連絡が取り合えるということだと思う。」「急な予定や変更などをすぐに相手に伝える事ができる。」「待ち合わせの時、遅刻とか、場所替え、急な待ち合わせの時などかなり役に立つ。」「緊急の連絡時など、すぐ連絡が入るようになった。」「連絡がつきやすい。非常時、緊急時に重宝する。」「困ったときに助けを呼べる。」

### ③気軽な伝達

携帯電話は若者にとってプライベートな通信手段であるために、気軽なコミュニケーションが可能となっている。

「いつ、どこでも自分の気持ちを伝えることができる。」「近況報告ができる。」「メールはちょっとしたことでも気がねなくできるので便利。」「メールを入れておけば相手に伝わる。好きな人とかにも気軽な気持ちで連絡することができる。」「友達とのコミュニケーションが気軽にできるので便利。」「ちょっとした連絡でも気軽にとれる（別に会ってまで話すことではないとき）。」

### ④人間関係の緊密化

携帯電話で気軽な会話ができるることは、擬似的に会っている状態を作り出し、お互いのことをよく知り、親密度が増すことになると思われる。また、携帯電話で待ち合わせをして実際に会うことも増え、親しい友人はより親しくなる。

「親しい友人といつでも連絡が取り合えるので、自然と会う回数が増え、より仲良くなった。」「ちょっとした会話みたいなのができ、仲のいい子とはより仲良くなれる。」「一番の利点は、知り合いとすぐに連絡がつくこと、なかなか会えない人とかとの連絡もつくことと、携帯電話でみんなとつながってると思えるところがいい。」「用がなくても通話することで、相手とつながっている気になれる。」「あまり仲良くない人とコミュニケーションに使って仲良くなれる。」「会いたくても会えないときに電話をして声を聞くことができ、何をしているかとか分かって安心できる。」「色々な友達と親密になれると思う。」

### ⑤言いにくいことの伝達（主にメール）

メールは直接的には携帯電話に向かって入力するために、口頭では伝えにくいこと（感情など）も容易に伝えられる。携帯電話でやりとりする相手は親しい友人が多いことから、パソコンの電子メールでみられるような、ネットワーク上のけんか（フレーミング）に発展することは少ないとと思われる。

「言葉では言いづらいことでも、メールだと言いやすい。」「直接言えないことも言えるときなどがある。」「相手に伝えにくいことでもメールなら伝えられる。」「口で言いにくいこともメールで言える。」「直接会っては話せないようなことをメールで伝えたりできるので、メール機能がついていることが大きいと思う。」

### ⑥メールならではのメリット

若者は、メールの技術特性に、通話にはない多様なメリットを見出しているようである。

「メールとか気軽にできるから、友人関係が長く続けられる。あと、電話で話すと聞き間違いなどが起きたりするが、メールだと文字なので安心。その上安い！！」「残しておきたい相手の言葉（メール）を保存でき、よい思い出にできる。」「些細なことでもメールをすることで通じ合える。電話じゃないから、思いきり相手の活動を阻害することもないし、なのに心があたたかくなれる。」「メールを使えば話しづらいところにいてもメールで会話ができる。」「メールがあるため、相手が電話に出れない状況でも、忘れないうちにとりあえず連絡がとれる。」「メール機能をよく使うほうなので、文章能力が上がり、学校のレポートなどもすらすら書けるようになった。」

#### ⑦時間の有効利用

携帯電話利用で行き違いのムダなどが省けるために、行動がより効率的になり、時間が有効利用できるようになる。

「いつでも、どこにいても連絡がとれる。そのことによって、待ち合わせなどもスムーズになり、時間が有効的に使えるようになった。」「色々な友達とも連絡がとれるし、友好関係が減りにくくなったり、やりたいことがやれるかやれないかを確認することにより、時間の無駄遣いも多少減ったと思う。」「伝えるべき事を時間効率よく伝えることができる。」「ムダに時間を使ったりしなくなる。」

#### ⑧暇がつぶせる

「どんなときにも人と連絡がとれるし、時間もつぶすことができるし、とても便利になったと思う。」「いつでもどこでも暇つぶし。」「暇なとき友人を探すのも便利。」「ひまな時間が減る。」

#### ⑨直接性

「自家に住んでいる彼女に電話するとき。」「家の電話と違って直接話したい相手にかけられる。」「時間や家族などを気にしなくても直接本人と連絡がとれる。」

#### ⑩交友・行動範囲の拡大

「交友関係が広がる。」「活動の機会が増える。」「自分なりのネットワークが広げられる。今より、社会に出たらさらに必要となるだろうと思う。」「携帯電話を多くの人が持つようになって、以前と比べて連絡がとりやすくなり、それによって活動の範囲が広がった。」「携帯を持つことによって、自分の行動力や行動範囲が広がり、より社交的になったような気がする。」

#### ⑪代替効果

「時計のかわりになる。」「メモ代わりに使う（写真であれ、テキストであれ）。」「通話だけでなく、目覚ましや時計やゲームもできるのでないところまる。」「電話機能以外の多様な機能（ゲーム、カメラ、iモード）。」「電話番号の管理が楽になった。」「一人暮らしでも自宅用の電話がいらなくなつた。」

#### ⑫インターネット・ウェブ機能

「iモード、スカイウェブ、インターネットなど、使い方が電話に限られないので、これまた便利

である。」「メールやインターネットの機能があり、多くの情報が手に入る。」「インターネット機能もあるので、買い物時や天気予報、観光などで、リアルタイムに情報収集ができる。」

### 【悪い面】

#### ①依存・不安

悪い面として、最も多く挙げられたのは、携帯電話に過度に依存してしまうことであった。そのため、携帯電話を忘れたり、連絡が入らなかったりすると不安に陥ることになる。また、他のことに集中できない、他のことがおろそかになるといったことも起こる。

「携帯を持っているのが当たり前になり、携帯にかなり依存してしまっている。」「ちょっとしたことでも連絡をとってしまう→頼りすぎてしまう。」「電話やメールをしていると、他事がおろそかになる。」「講義に集中する人が少なくなる。」「友達と話しているときでさえ、携帯をいじってしまうことがあるので、少し自分勝手の部分がでてくる。」「電話番号やその他の個人的なデータがメモリにすべて登録してあるので、もしなくしてしまったらとても困るし、連絡がとれなくなる。」「携帯電話依存症になって、家におき忘れたりすると、大学にいてもずっと携帯のことが気になる。」「携帯がないと不安になったり、依存症みたいのが自分にもあって嫌になる。」「いつも携帯電話がないと不安。持つていれば、誰から連絡がないか気になる。どっちにしても気分が落ち着かない。」「相手が電話に出れないときなど、多かれ少なかれ不安を感じる。」「友達から連絡がない日は、ケータイが気になってしかたなくなる。」

#### ②私生活への侵入

かつて（固定）電話は、個人の日常生活に暴力的に割り込んでくるメディアといわれたが、常時携帯している携帯電話は、固定電話以上に暴力的である。携帯電話の電源をOFFにしておけばよいが、それでは自分にとって必要な連絡まで入らなくなってしまうから不安になるということか。

「連絡が取りやすい反面、こちらが取り込み中に連絡がある。」「自分が使いたくないときもメールが来たりして（特別な用事でない）めんどうだったりする。」「勉強などで集中しなければならないときでもメールや電話がかかってくることが多い。そうすると、やっぱり集中できないし、時間もなくなってしまう。」「旅先でくつろいでいるときとかに、バイトの電話がかかると気分が悪い。」「電話に出られないときにかかって来るとジャマ。」「寝ているときでも平気で電話がかかってくるので困る。」「つらいことがあって、一人でいたくても連絡があつたりする。」

#### ③利用料金が高い

学生にとって携帯電話の利用料金は高額である。

「お金がかかる。」「携帯を持っているだけで月1万円位の出費が増えた。」「便利で頻繁に使おうとする反面、料金が高いので支払いが大変。後払いなので、ある意味借金と同じ。」「知らないうち

にすさまじい額の請求書がくる。」「メールは安いから何回送っても安心と思っていても、今はカメラ付き携帯電話ができてメールに画像を添付したりすると意外に料金が高くなる。」

#### ④マナーの悪さ

携帯電話のマナーの悪さを指摘する声が比較的多かった。公共の場における携帯電話利用について、社会的規範が成立しつつあることが考えられる。

「マナーを守れない人が増えた。」「電車の中で平気で電話をしている人がいますが、体に害をおよぼす人や気分を害する人がいるということを忘れていると思います。」「授業中、電車の中でメールならまだしも、通話はやめていただきたい。」「メールをしてながら歩いていると、信号を見落としがちで危ない。」「車で使用しての事故（その人だけの害ならまだしも、歩行者も同乗者も危険）。」

#### ⑤電磁波の影響

意外と多かったのが、電磁波の影響を心配する声であった。科学的な因果関係は証明されていないが、健康にかかわる問題であるだけに、学生の意識は高かった。

「電磁波の影響がある。」「電磁波が気になる。」「電磁波が体に悪い。」「人体に影響がないか心配。」

#### ⑥対面接觸の減少

携帯電話で連絡を取り合うことは、直接会う機会を増やすと思われるが、携帯電話で用件をすべて済ませてしまえば対面接觸の機会は減ることになる。対面回数の減少は、対人関係に支障を来すことにもなりかねない。

「人との接触というか、電話やメールで何でもすましちゃうようになったことが多少あり、そのへんが悪い面だと思います。」「メールばかりで直接人とコミュニケーションをとる機会が少なくなってきた。」「直接会って話せばいいことをメールや電話で簡単にやりとりしてしまうので、少しそんな世界がこわく感じる時があります。」「用事を何でも携帯で済まそうとするため、わざわざ足を運ぶということが減ってしまう。」「対面恐怖症があるように、人間関係がうまくできなくなっている。」「メールや通話に頼って自分本来の人に対する関係が苦手になったかもしれない。」

#### ⑦表面的な人間関係

携帯電話が表層的な人間関係を助長することについては、否定的な見解が示されてきたが（たとえば、中村、2001a）、携帯電話で、広く浅い、表面的な付き合いが増えるという肯定的な意見も少なからずみられた。

「表面的なつきあいとかが多くなるし、人と面と向かって話すことが少なくなって、気むずかしい人間になりそう。」「どんなことでも電話で終わらせてしまい、友人関係など深くならない。」「メールなど、うわべだけの付き合いが増えてしまう。」「浅く広い人間関係になってきやすい。」「“TEL番教えて” “メルアド教えて” から始まる微妙な友達が増えた。」「連絡をとらなくなった人は微妙な関係になる。」

#### ⑧迷惑メール・迷惑電話

「迷惑メールのように、知らない人に自分の番号が知られ、不必要的メールや着信がくるのがやだ。しかも真夜中なので腹が立つ。」「迷惑メールが多い。」「いろんな勧誘の電話がくる。」「迷惑メールとか、知らない人から電話がかかってくるようになった。」「携帯を持つことで、（チェーンメールなどの） いらない情報までも得ることになるので迷惑だ。」

#### ⑨束縛感

「たのまれごとをされて、縛られることが多くなった。」「携帯に縛られるようになっている。」「自由を少し奪われるような気がする。」「嫌なことから逃げれない。」「電話に縛られている（私は携帯電話をやめようかと考えています）。」「連絡がとれてしまうので、少しふりまわされることもある。」

#### ⑩犯罪・事件・不正行為

「犯罪が増えた。」「出会い系サイト等での事件をよく耳にするようになり、犯罪に使われるのはとてもこわい。」「使う人間のモラルにもよるが、携帯電話がらみの事件が増えた。」「講義中に私用な連絡をとったり、テスト時にメールを使ったカンニングが行われていた。」

#### ⑪手がかり情報が少ない

「相手の表情が見えないので、相手の感情がわからない。」「メールの相手が何を考えているのかわからない。」「ケータイを持つ→電話する機会がふえる→相手の顔がみれない→自分の感情を言葉のみでしか伝えられない（カメラ付きでも限界がある）。」「つねに相手と連絡がとれるというのが当たり前のようになってしまって、自分が連絡のとれないときに、どうして？という風に聞かれたり、おこられたりする。」「携帯電話がなっていることに気づかなかったとき、相手に無視したと誤解される。」

#### ⑫つきあいが増える

「携帯ですぐに遊びに誘われたりするので忙しくなった。」「携帯を持ってから遊びの誘いが増え、金の浪費が増えた。」「夜遊ぶ回数が増えて、朝起きられないときがある。」「友達と遊ぶことが増えたので、家にいることが少なくなり、親との関係がよくわからなくなってきた。」

#### ⑬迅速な情報処理要求

「メールを送ったはいいが、返事が遅いのでイライラしてしまうなど、逆に返事をすぐに返さなければいけないなどのあせりも。」「時間に縛られているように感じる。」「考てる最中に何度も返答の（督促をする）メールを送られると困る。」

#### ⑭コントロール感の増大

「電波が悪かったり、つながらなかつたりすると、相手にイラだちを覚えるようになる。」「持っているにもかかわらず連絡がとれないといライラする。」「つながりやすいので、逆につながらなかつたとき、きつい。」

#### ⑯時間にルーズになった

「時間にルーズになった。」「いつでも連絡がとれるという考えをもって時間にルーズになった。」

### 5. おわりに

若者の携帯電話利用の実態とその影響について、大学生を対象とした実態調査を実施し、分析、考察してきた。

携帯電話利用に関する調査研究は、従来からいくつか行われてきたが（たとえば、橋元他、2000；マルチメディア振興センター編、2001）、それらの調査結果と比較すると、若者の携帯電話利用は一段と進んでいることが明らかになった。若者は全員が携帯電話を持っているといつても過言ではなく、親密な友人（恋人を含む）や知人との連絡に不可欠なツールとなっていた。また、携帯電話の通話機能とメール機能は異なった用途に用いられており、若者は通話よりもメールを多く利用する傾向があった。したがって、携帯電話の影響を考えるときには、通話とメールを区別することが重要である。

今回の調査ではカメラ機能についても調べてみたが、カメラ機能は日常的に利用されるまでには普及していなかった。カメラ機能に対する潜在的ユーザは多いと予想されるが、その影響が論じられるまでには至っていない。

このような携帯電話利用状況のなかで、若者のコミュニケーション行動に与える影響について、意識面、行動面、関係性の各側面から分析を行った。その結果、全体的傾向としては、携帯電話は若者の意識面に、安心感と不安、自由感と束縛感といった正反対で両義的な影響を与えており、行動面への影響も直接会う機会を増やすなど、強い影響を与えていた。これに比べると、関係性への影響はあまり強くなかった。携帯電話は友人関係をより親密にする傾向はあったが、関係性を変えるような段階までは至っていないといえる。

通話とメールの影響を個別に検討した結果、行動面では通話とメールの影響は明白であった。通話とメールが増えるほど、行動面への影響は大きくなった。しかし、意識面では、通話の方がメールよりも大きな影響を与え、関係性では、逆にメールの方が通話よりも大きな影響を与えていた。個人の社交性やデモグラフィック要因など、個人差によっても影響の表れ方に差があった。予想通り、社交的な人ほど、行動面を中心に、携帯電話の影響を強く受ける傾向があった。このように、多機能化した携帯電話の影響は、利用する機能や個人差によって異なることから、若者の携帯電話利用を一括してとらえるのではなく、さまざまな角度から詳細に検討することが必要である。

携帯電話が若者の人間関係に与える影響については、さまざまな方向性が見出せた。携帯電話は、特定の親しい友人とのコミュニケーションを増加させ、直接会う機会を増やし、より緊密な

関係を構築するの役立っている。多くの人と深い付き合いをすることは、時間的にも金銭的にも困難であることから、特定の友人を選択せざるをえない面はたしかにあるだろう。しかし、一方で、携帯電話で友人のネットワークを広げ、目的に応じてつきあう人を選択するという人間関係を構築することも可能である。携帯電話は、より多様で柔軟な人間関係を作り上げる道具ともなるのである。

また、直接会うこともなく、携帯電話ですべてを済ますことも不可能ではなく、表面的な人間関係を助長することも考えられる。携帯電話で人間関係のスキルを低下させてしまうことも起こりうるのである。

このように、携帯電話の影響は、それが使われる状況（文脈）や使い方によって左右されると考えられる。携帯電話の技術特性が若者のコミュニケーション行動を決定づけるという考え方だけでは、両義的な影響の表れ方をうまく説明することは難しいのである。むしろ、若者は、人間関係やコミュニケーション能力が十分に開発されていないために、携帯電話というコミュニケーション・ツールに振り回されている可能性も考えられる。携帯電話で常時連絡を取り合えば、友人とのつながりを確認することができるが、同時に自分の日常生活がつねに侵害されることになっている。緊急時に連絡がつくことは、緊急時に呼び出されることもある。この結果として、多忙感や束縛感を抱くことになる。

携帯電話は今や人々の生活に完全に密着し、必要不可欠なコミュニケーション・ツールとなっており、今後ともその利用は拡大する一方だろう。そのため、携帯電話の良い面を生かし、悪い面を克服する努力は非常に重要である。とくに、今回の調査で、若者は携帯電話に過度に依存し、携帯電話がないと不安になったり、他の事に集中できなかったりすることが多く指摘されたことから、このような個人の心理的な側面からの研究を一層充実させなければならない。

なお、本研究は、中村ゼミ4期生（2002年度卒業）の友田愛子、佐藤俊充、長瀬直樹、小竹浩一郎が共同研究として行った卒業論文を基に再分析、再構成したものであることを付記する。

(注)

- (1) 意識面については、1=そう思わない、2=あまりそう思わない、3=ややそう思う、4=そう思う、とコード化した。また、利用目的については、1=使わない、2=たまに使う、3=ときどき使う、4=よく使う、とコード化した。通話については、1=ほとんど使わない、2=月数回程度、3=週1回程度、4=週数回程度、5=1日1~2回、6=1日3~5回、7=1日6~9回、8=1日10~14回、9=1日15~19回、10=1日20回以上、とコード化した。なお、表5~9も同様である。

(2) 社交性は、1=あてはまらない、2=あまりあてはまらない、3=やあてはまる、4=あてはまる、とコード化した。表11、12も同様である。

## 参考文献

電気通信事業者協会、<http://www.tca.or.jp>

橋元良明、石井健一、中村功、是永論、辻大介、森康俊（2000）「携帯電話を中心とする通信メディア利用に関する調査研究」東京大学社会情報研究所調査研究紀要、第14号、pp.83-192。

橋元良明（2001）「携帯メールの利用実態と使われ方—インターネットによるEメール利用との比較を中心にして」日本語学9月号、Vol.20、pp.23-31。

マルチメディア振興センター編（2000）『インターネット、携帯電話、PHSの高度利用に関する調査研究』

松田美佐（2000）「若者の友人関係と携帯電話利用—関係希薄化論から選択的関係論へ—」社会情報学研究、No.4、pp.111-121。

松田美佐（2001）「パーソナルフォン、モバイルフォン、プライベートフォン—ライフステージによる携帯電話利用の差異—」現代のエスプリ、No.405、pp.126-138。

松田美佐、富田英典、藤本憲一、羽渕一代、岡田朋之（1998）「移動体メディアの普及と変容」東京大学社会情報研究所紀要、第56号。

三宅和子（2001）「ポケベルからケータイ・メールへ—歴史的変遷とその必然性—」日本語学9月号、Vol.20、pp.6-22。

仲島一朗、姫野桂一、吉井博明（1999）「移動電話の普及とその社会的意味」情報通信学会誌、Vo.16、No.3、pp.79-92。

中村功（2000）「携帯電話を利用した若者の言語行動と仲間意識」日本語学10月号、Vol.19、pp.34-43。

中村功（2001a）「携帯電話と変容するネットワーク」川上善郎編『情報行動の社会心理学』北大路書房、pp.76-87。

中村功（2001b）「携帯メールの人間関係」東京大学社会情報研究所編『日本人の情報行動2000』東京大学出版会、pp.285-303。

岡田朋之、松田美佐、羽渕一代（2000）「携帯電話利用におけるメディア特性と対人関係—大学生を対象とした調査事例より—」平成11年度情報通信学会年報、pp.43-60。

岡田朋之、松田美佐編（2002）『ケータイ学入門—メディア・コミュニケーションから読み解く現代社会—』有斐閣選書。

田中ゆかり（2000）「「ケータイ」という研究テーマ—都内二大学アンケートを中心に—」日本語学10月

携帯電話が若者のコミュニケーション行動に与える影響（中村）

号、Vol.19、pp.18-31。

田中ゆかり（2001）「大学生の携帯メール・コミュニケーション」日本語学9月号、Vol.20、pp.32-43。

吉井博明（2001）「若者の携帯電話行動」現代のエスプリ、No.405、pp.85-95。

吉井博明（2002）「携帯インターネットの利用実態」通信総合研究所、東京大学社会情報研究上編『世界インターネット利用白書－主要6カ国－』NTT出版、pp.145-163。